官報

第七千五百八十六號

明治四十一年十月七日　水曜日

印刷局

○府令

臺灣總督府令第五十八號

明治四十年三月府令第十四號中「第十六條」ヲ削ル

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年九月二十七日

臺灣總督　伯爵佐久間左馬太

臺灣總督府令第五十九號

臺灣違警例左ノ通相定ム

明治四十一年十月一日

臺灣總督　伯爵佐久間左馬太

臺灣違警例

第一條　左ニ記載シタル事項ヲ遵守セサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　一定ノ住居及生業ヲ有セス諸方ヲ徘徊スヘカラス

二　故ナク人ノ居住又ハ看守セサル邸宅、建造物若ハ船舶内ニ潛伏スヘカラス

三　故ナク面會ヲ强請シ又ハ强請威迫ノ行爲ヲ爲スヘカラス

四　合力又ハ喜捨ヲ强請シ技藝ヲ衒賣シ又ハ物品ヲ强賣スヘカラス

五　濫リニ寄附ヲ强請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ物品、入場券等ヲ配付スヘカラス

六　入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ强請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ノ强請ヲ爲スヘカラス

七　辯護士ニアラスシテ訴訟ノ鑑定其ノ他辯護士ノ業務ニ類スル行爲ヲ爲スヘカラス

八　入札者間申合セヲ爲ス等競爭入札ノ目的ニ反スル行爲ヲ爲スヘカラス

九　私ニ持場ヲ定メ他人ノ稼業ヲ妨害スヘカラス

十　他人ニ汚穢物又ハ瓦礫等ヲ拋棄スヘカラス

十一　官署ニ對シ不實ノ申述ヲ爲シ又ハ情ヲ知リテ其ノ代書ヲ爲スヘカラス

十二　事實ヲ捏造シテ官署ニ投書シ又ハ情ヲ知リテ其ノ代書ヲ爲スヘカラス

十三　多衆會同ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス其ノ妨害ヲ爲スヘカラス

十四　本籍本居住所姓名年齡身分、職業等ヲ詐稱シテ投宿又ハ乘船スヘカラス

十五　道路、河川、溝渠、下水用水路、排水路、家屋又ハ庭園ニ瓦礫汚穢物若ハ禽獸ノ死屍ヲ投擲スヘカラス

十六　流言浮說又ハ虛報ヲ爲シテ人ヲ誑惑セシムヘカラス

十七　妄ニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ加持、祈禱、符呪等ヲ爲シ若ハ守札ノ類ヲ授與シテ人ヲ惑ハスヘカラス

十八　粗暴ノ言論行爲ヲ爲シ公安ヲ害スヘカラス

十九　故ナク他人ノ金談取引等ニ關渉シ又ハ濫リニ訴訟其ノ他ノ紛擾ヲ惹起セシムヘカラス

二十　人家稠密ノ場所ニ於テ濫リニ煙火其ノ他ノ火器ヲ弄スヘカラス

二十一　官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞ノ虞アル建造物ノ修繕又ハ顚仆ノ虞アル物件ノ釐換等ヲ怠ルヘカラス

二十二　故ナク人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ焚火ヲ爲スヘカラス

二十三　私有地外ニ濫リニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出スヘカラス

二十四　道路堤防ノ樹木ヲ拔取リ又ハ採折スヘカラス

二十五　道路橋梁其ノ他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及指道標ノ類ヲ汚損スヘカラス

二十六　他人ノ繫キタル獸類又ハ舟筏ヲ解放スヘカラス

二十七　耕作物アル他人ノ田圃ニ家畜類ヲ放飼シ又ハ牽入ルヘカラス

二十八　祭祀祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ妨害ヲ爲スヘカラス

二十九　濫リニ銃砲ヲ發射スヘカラス

三十　他人ノ業務ニ對シ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲スヘカラス

三十一　新聞紙雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利ヲ圖ルヘカラス

三十二　申込ナキ新聞紙雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求スヘカラス

三十三　官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用スヘカラス

三十四　電線ノ近傍ニ於テ紙鳶ヲ揚クル等其ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲スヘカラス

三十五　水火震災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セス警戒ノ場所ヲ侵シ又ハ防禦スヘキ命ヲ受ケテ徒ニ傍觀スヘカラス

三十六　官署ノ督促ヲ受ケテ煙突ノ改造修繕及掃除ヲ怠ルヘカラス

本文

本文 7586 号

三十七　精神病者ノ看護ヲ怠リ公衆ノ通行スヘキ場所ニ徘徊セシムヘカラス

三十八　危險ノ虞アル獸類ノ繫鎖ヲ怠リ公衆ノ通行スヘキ場所ニ放ツヘカラス

三十九　制止ヲ肯セス人ノ群集シタル場所ニ牛馬駱駝ヲ入レヘカラス

四十　橋梁又ハ堤防ノ妨害トナルヘキ場所ニ舟筏ヲ繫クヘカラス

四十一　牛馬駱駝車木石其ノ他ノ物件ヲ道路ニ横ヘ又ハ堆積スル等通行ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲スヘカラス

四十二　水路ニ於テ舟筏ノ通行ヲ妨害スヘカラス

四十三　鐵道用地内ニ濫リニ家畜類ヲ入ラシムヘカラス

四十四　鐵道線路ノ近傍ニ牛ヲ放飼スヘカラス

四十五　市街地ノ道路又ハ溝渠下水ニ牛馬羊豚ヲ放飼スヘカラス

四十六　家畜類ヲ放飼シテ道路堤防溝渠下水其ノ他公共用ノ築造物ヲ破壞セシムヘカラス

四十七　許可ヲ得スシテ道路道路敷堤防溝渠下水、河川又ハ用水路、排水路ノ原形ヲ變更スヘカラス

四十八　他人ノ所有地内ニ於テ土石砂礫又ハ芝草等ヲ掘取ルヘカラス

四十九　密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合ヲ爲スヘカラス

五十　臺碑又ハ路上ノ神佛若ハ神祠佛堂其ノ他公ノ建造物ヲ汚瀆スヘカラス

五十一　公衆ノ賭易キ場所ニ於テ賭博ニ類スル行爲ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

五十二　自己又ハ他人ノ身體ニ刺文スヘカラス

五十三　濫リニ牆壁其ノ他ノ場所ニ貼紙、樂書シ又ハ郵宅ノ番號、標札、招牌、貸家賣家ノ貼紙其ノ他ノ榜示ヲ汚損又ハ撤去スヘカラス

五十四　奇異ノ扮裝ヲ爲シ又ハ不穩ノ擧動ヲ爲シ制止ヲ肯セス徘徊スヘカラス

五十五　治安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ルヘキ演藝講談等ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

五十六　許可ヲ得スシテ煙火ヲ製造シ又ハ販賣スヘカラス

五十七　官署ニ於テ價額ヲ定メタル物品ヲ私ニ定價以上ニ販賣スヘカラス

五十八　許可ニ附シタル條件ニ違背スヘカラス

五十九　許可ヲ得スシテ死體ノ解剖又ハ保存ヲ爲スヘカラス

六十　自己ノ占有スル場所内ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若ハ死體アルコトヲ知リタルトキハ遲ニ警察官吏ニ申告スヘシ

六十一　前號ノ死體ハ警察官吏ノ指揮ヲ受ケスシテ之ヲ他ニ移スヘカラス

六十二　許可ヲ得タル墓地又ハ火葬場外ニ於テ密ニ埋火葬スヘカラス

六十三　醫師、産婆正當ノ事由ナキ限リハ病者又ハ産婦ノ招キニ應セサルヘカラス

六十四　病者ニ對シ禁厭祈禱符呪等ヲ爲シ又ハ神符、神水ヲ與フル等醫療ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スヘカラス

六十五　祭典祈禱ノ爲故ラニ自己ノ身體ヲ傷クヘカラス

六十六　飲用水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ用水路ニ妨害ヲ爲スヘカラス

六十七　公共給水栓ノ周圍ニ於テ洗濯ヲ爲シ又ハ公共給水栓ヲ汚損スヘカラス

六十八　猥リニ公共給水栓ヲ開閉スヘカラス

六十九　公共給水栓把手ニ木石等ヲ挿入シテ放水スヘカラス

七十　公共給水栓ヨリ船舶用ノ水ヲ汲取ヘカラス

七十一　精米ニ石粉其ノ他ノ異種物ヲ混入シ又ハ糠巻ヲ爲シ若ハ濕氣ヲ含マシメタルモノヲ營業用ニ供スヘカラス

七十二　病死ノ禽獸ヲ食料トシテ販賣スヘカラス

七十三　官署ノ督促ヲ受ケテ清潔法ノ執行ヲ怠ルヘカラス

七十四　檻籠其ノ他毒物又ハ爆發物ノ類ヲ以テ漁魚ヲ爲スヘカラス

七十五　官署ノ督促ヲ受ケテ防鼠ノ措置ヲ怠ルヘカラス

第二條　左ニ記載シタル事項ヲ遵守セサル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

一　濫リニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨スヘカラス

二　正當ノ事由ナキ限リハ官署ノ召喚ニ應セサルヘカラス

三　官署ノ督促ヲ受ケテ道路ニ倒レタル竹木又ハ垂掛リタル枝葉ノ取除ヲ怠ルヘカラス

四　濫リニ他人ノ常燈ヲ消スヘカラス

五　他人ノ田畑園圃ニ於テ菜果ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折スヘカラス

六　耕作物アル他人ノ田圃ヲ通行スヘカラス

七　他人ノ安眠ヲ妨クヘキ場所ニ於テ夜十二時後日出前歌舞音曲其ノ他喧噪ノ行爲ヲ爲スヘカラス

八　公衆ノ通行スヘキ場所ニ於テ新聞紙雜誌類ヲ讀賣スヘカラス

九　濫リニ空氣銃又ハ吹矢ノ類ヲ弄スヘカラス

十　鬪犬又ハ鬪鷄ヲ爲スヘカラス

十一　人家稠密ノ場所ニ於テ瓦石ヲ投クル等危險ノ遊戲ヲ爲スヘカラス

十二　公衆ノ通行スヘキ場所ニ在ル危險ノ井溝又ハ凹所ニ適當ノ蓋又ハ防圍ヲ爲スコトヲ怠ルヘカラス

十三　公衆ノ通行スヘキ場所ニ於テ獸類ヲ嗾シ又ハ驚逸セシムヘカラス

十四　交通ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ濫リニ牛馬諸車ヲ疾驅スヘカラス

十五　夜間燈火ナクシテ牛馬ヲ疾驅スヘカラス

十六　木石等ヲ道路ニ置キタルトキハ防圍及標識ノ點燈ヲ爲スコトヲ怠ルヘカラス

十七　渡船橋梁其ノ他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取リ又ハ故ナク通行ヲ妨クヘカラス

十八　渡船橋梁其ノ他通行錢ヲ拂フヘキ場所ニ於テ其ノ定價ヲ出サスシテ通行スヘカラス

十九　制止ヲ肯セス路傍ニ飲食物其ノ他ノ商品ヲ陳列スヘカラス

二十　通行ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ制止ヲ肯セズ遊戲ヲ爲スヘカラス

二十一　牛馬ヲ牽キ又ハ驅クコトヲ怠ニシテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

二十二　出入ヲ禁止シタル場所ニ出入シ、官署ノ榜示シタル禁條ニ違背スヘカラス

二十三　監視者ヲ付セスシテ牛馬ヲ放飼スヘカラス

二十四　街路ニ於テ制止ヲ肯セス放歌高聲其ノ他喧嘩、爭論ヲ爲スヘカラス

二十五　諧謔シテ路上ニ喧噪シ又ハ醉狂スヘカラス

二十六　公衆ノ賭易キ場所ニ於テ醜體ヲ爲スヘカラス

二十七　不熟ノ果物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣スヘカラス

二十八　官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除又ハ溝渠下水ノ浚渫ヲ怠ルヘカラス

二十九　市街地ノ路上ニ於テ大小便ヲ爲シ又ハ爲サシムヘカラス

三十　路上ニ於テ濫リニ鼠類ヲ屠リ又ハ其ノ皮ヲ剝クヘカラス

三十一　生河豚ヲ賣買授受スヘカラス

三十二　改葬又ハ洗骨ノ爲發掘シタル墳穴ノ充塞ヲ怠ルヘカラス

三十三　自己ノ管理ニ屬スル公共便所ノ掃除ヲ怠ルヘカラス

第三條　本令ニ規定シタル違反行爲ノ教唆者及從犯者ハ之ヲ罰ス

第四條　第一條第十三號乃至第四十六號及第二條第二十三號ノ場合ニ於テ其ノ行爲者十四歲ニ滿タサルトキハ家畜類ノ占有者ヲ罰ス

附　則

第五條　本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府令第六十號

臺灣害蟲驅除豫防規則施行規則左ノ通相定ム

明治四十一年十月一日　臺灣總督　伯爵佐久間左馬太

臺灣害蟲驅除豫防規則施行規則

第一條　臺灣害蟲驅除豫防規則第二條第一項ニ依リ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ第二條ニ依ルノ外之ヲ告示ス

第二條　廳長ハ害蟲驅除豫防上必要ト認ムルトキハ溝渠ヲ開鑿シ又ハ農作物（藥稗刈株等ヲ含ム）若ハ樹木雜草ヲ拔薬燒却埋沒スルコトヲ得

第三條　耕作人ニ於テ害蟲其ノ田畑ニ發生シ又ハ發生ノ虞アルコトヲ知リタルトキハ直ニ驅除豫防ニ着手シ害蟲ノ種類、着手シタル驅除豫防ノ方法及被害見積面積ヲ口頭若ハ書面ヲ以テ所轄警察官ニ届出ヘシ

警察官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ現場ニ臨檢シ其ノ狀況ヲ廳長ニ報告スヘシ

第四條　害蟲發生シ若ハ發生ノ虞アルトキ又ハ蔓延シ若ハ蔓延ノ虞アルトキハ廳長ハ其ノ都度臺灣總督ニ急報スヘシ臺灣害蟲驅除豫防規則第七條ノ動植物ヲ發見シタルトキ亦同シ

第五條　臺灣害蟲驅除豫防規則第四條第二項ニ依ル費用ハ業主及佃人之ヲ負擔シ其ノ土地カ國庫ニ屬スルトキハ佃人之ヲ負擔スヘキ場合ノ外業主之ヲ負擔ス但シ業主カ管理人ヲ置キタルトキハ業主ノ負擔スヘキ費用ハ其ノ管理人之ヲ負擔ス

第六條　臺灣害蟲驅除豫防規則第三條第二項及第四條第二項ニ依ル驅除豫防ノ費用徵收ニ關シテハ臺灣地方稅徵收ノ規定ヲ準用ス

臺灣害蟲驅除豫防規則第四條第二項ニ依ル費用ノ徵收ヲ爲サムトスルトキハ廳長ハ左ノ事項ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クヘシ

一　徵收ノ方法

二　徵收スヘキ金額

三　負擔ノ割合

四　徵收ノ時期

五　驅除豫防計畫書

六　負擔民力ノ關係

第七條　害蟲發生シ隣接廳ニ蔓延ノ虞アルトキハ廳長ハ其ノ旨關係廳長ニ急報スヘシ

第八條　害蟲二廳以上ニ跨リ蔓延シタルトキ若ハ蔓延ノ虞アルトキハ關係廳長ハ驅除豫防ノ方法及施行區域ヲ協定シ驅除豫防ヲ行フヘシ

第九條　廳長ハ臺灣害蟲驅除豫防規則第三條第四條及本令第三條第五條及第八條ノ驅除豫防ノ着手及終了ヲ其ノ都度別記樣式ニ依リ臺灣總督ニ報告スヘシ

第十條　臺灣害蟲驅除豫防規則第七條ノ動植物發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ臺灣害蟲驅除豫防規則第二條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十一條　第三條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）樣式

害蟲驅除豫防報告

害蟲名稱	被害作物名	被害堡里街庄社名	發生又ハ發見月日	被害見積面積	驅除豫防着手又ハ終了月日	被害狀況

右及報告候也

年　月　日

臺灣總督府

廳長　名

許可 7586 号

○訓令

大藏省訓令第四十六號

稅關ハ關稅行政ノ施行其他ニ關シ商況ノ變遷ニ伴ヒ隆替ニ影響スル事項ニ付テハ常ニ之ヲ調査シ其ノ概況ヲ毎年一回大藏大臣ニ報告スヘシ

明治四十一年十月七日　大藏大臣　侯爵　渡邊千秋

大藏省訓令第四十七號

稅務監督局稅務署ノ位置ヲ定ムル件ヲ別紙ノ通定ム

明治四十一年十月七日　大藏大臣　侯爵　渡邊千秋

○告示

內務省告示第百四號

指定ス

明治四十一年十月七日　內務大臣　法學博士男爵　平田東助

內務省告示第百五號

一新墾　第十九等第四號　一冊

十一年十月六日願濟願書類ニ據リ開墾免許地反別ヲ左ノ通改定ス

明治四十一年十月七日　內務大臣　法學博士男爵　平田東助

農商務省告示第百四十八號

森林法ニ依リ左記國有林ヲ保安林ニ編入ス

明治四十一年十月七日　農商務大臣　男爵　大浦兼武

農商務省令第二十九號

明治三十三年農商務省令第三十號中第二號樣式ノ二ヲ削除ス

明治四十一年十月七日　農商務大臣　男爵　大浦兼武

○訓令

大藏省訓令第四十六號

稅關ハ關稅行政ノ施行其他ニ關シ商況ノ變遷ニ伴ヒ隆替ニ影響スル事項ニ付テハ常ニ之ヲ調査シ其ノ概況ヲ毎年一回大藏大臣ニ報告スヘシ

明治四十一年十月七日　大藏大臣　侯爵　渡邊千秋

大藏省訓令第四十七號

稅務監督局稅務署ノ位置ヲ定ムル件ヲ別紙ノ通定ム

明治四十一年十月七日　大藏大臣　侯爵　渡邊千秋

○告示

內務省告示第百五號

一新墾　第十九等第四號　一冊

十一年十月六日願濟願書類ニ據リ開墾免許地反別ヲ左ノ通改定ス

明治四十一年十月七日　內務大臣　法學博士男爵　平田東助

農商務省告示第百四十八號

森林法ニ依リ左記國有林ヲ保安林ニ編入ス

明治四十一年十月七日　農商務大臣　男爵　大浦兼武

明治四十一年十月七日遞信省告示第九百三十號

電信事務ヲ開始ス

明治四十一年十月七日　遞信大臣　男爵　後藤新平

明治四十一年十月七日遞信省告示第九百三十一號

遞信省告示第九百二十二號ノ一ヲ左ノ通改正ス

明治四十一年十月七日　遞信大臣　男爵　後藤新平

明治四十一年十月七日遞信省告示第九百三十二號

遞信省告示第九百二十二號ノ二ヲ左ノ通改正ス

明治四十一年十月七日　遞信大臣　男爵　後藤新平

明治四十一年十月七日遞信省告示第九百三十三號

遞信省告示第九百二十二號ノ三ヲ左ノ通改正ス

明治四十一年十月七日　遞信大臣　男爵　後藤新平

臺灣總督府告示第百十一號

明治四十一年九月二十七日　臺灣總督　伯爵　佐久間左馬太

臺灣總督府告示第百十二號

明治三十七年告示第百十三號臺灣總督府告示第百四十四號ヲ左ノ通改正ス

明治四十一年九月二十九日　臺灣總督　伯爵　佐久間左馬太

臺灣總督府告示第百十三號

明治四十一年九月二十七日臺灣總督府告示第七十九號ヲ以テ流木ノ告示ヲ發シタル北門洲浮標ハ今回舊位置ニ復置セリ

明治四十一年九月二十七日　臺灣總督　伯爵　佐久間左馬太

臺灣總督府告示第百十四號

明治三十七年告示第百十三號臺灣總督府告示第百四十四號ヲ以テ臺灣總督府告示第百十二號ヲ追加シ臺灣總督府告示第百十三號ヲ追加ス

明治四十一年九月二十九日　臺灣總督　伯爵　佐久間左馬太

臺灣總督府告示第百十五號

除蟲ノ方法左ノ通相定ム

明治四十一年十月一日　臺灣總督　伯爵　佐久間左馬太

臺灣總督府告示第百十六號

臺灣害蟲驅除豫防施行規則第一條ニ依リ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法左ノ通相定ム

明治四十一年十月一日　臺灣總督　伯爵　佐久間左馬太

第一　害蟲ノ種類

一　一點螟蟲（二點オホメイガ、三化螟蟲）

二　二化螟蟲　被害作物　稻

三　鐵甲蟲　被害作物　イネトゲムシ

四　泥負蟲　被害作物　稻（ドロハムシ、ドロコムシ）

五　浮塵子（ウンカ）　被害作物　稻

六　蛆蟲　被害作物（セセリテフグトムシ）　稻

七　稻小螟蛉（ヲオビコヤガ、イネコアラムシ）　被害作物　稻

八　稻縊葉蟲（イネノハカシミヅメイガ、イネヌテハマキ）　被害作物　稻

九　稻象蟲（イネゾウムシ）　被害作物　稻

十　臺灣夜盜蟲（ヨアヲヨトウ）　被害作物　稻

十一　捲葉螟蟲（サツマイモメイガ）　被害作物　甘藷

十二　柑橘介殼蟲（ミカンノカイガラムシ）　被害作物　柑橘

十三　鐵砲蟲（コマダラカミキリ）　被害作物　柑橘

十四　桑鐵砲蟲（クワカミキリ）　被害作物　柑橘

十五　稻蝗蟲（イネノイモチ）　被害作物　稻

第二　驅除豫防ノ方法

一　一點螟蟲

第7586号　本文

イ 卵塊ハ採集シテ燒却又ハ潰殺スヘシ
ロ 成蟲ハ誘蛾燈ヲ以テ誘殺シ又ハ捕蟲網ヲ用ヰテ捕殺スヘシ
ハ 枯葉、心枯及枯穗ハ拔キ取リ燒却スヘシ
ニ 被害刈株ハ掘起シ燒却又ハ埋沒スヘシ

二 二化螟蟲
驅除豫防ノ方法ハ一點螟蟲ニ同シ

三 鐵甲龜蟲
イ 被害葉ハ刈リ取リ燒却又ハ土中ニ埋沒スヘシ
ロ 成蟲ハ捕蟲器ヲ以テ捕殺スヘシ
ハ 畦畔及附近ノ雜草ハ刈リ取リ燒却スヘシ

四 泥負蟲
イ 幼蟲及成蟲ハ石油ヲ滴下シ拂ヒ落シ又ハ捕蟲器ヲ以テ捕殺スヘシ
ロ 被害甚タシキ莖葉ハ刈リ取リ燒却スヘシ
ハ 畦畔及附近ノ雜草ハ刈リ取リ燒却スヘシ

五 浮塵子
イ 幼蟲及成蟲ハ石油ヲ滴下シ拂ヒ落シ又ハ捕蟲網ヲ用ヰテ捕殺スヘシ
ロ 畦畔及附近ノ雜草ハ刈リ取リ燒却スヘシ

六 苞蟲
イ 幼蟲ハ竹櫛(龜仔撇)ヲ以テ捕殺スヘシ

七 稻小螟蛉
イ 成蟲ハ誘蛾燈ヲ以テ誘殺シ又ハ捕蟲網ヲ用ヰテ捕殺スヘシ
ロ 幼蟲ハ竹櫛(龜仔撇)又ハ捕蟲網ヲ以テ捕殺スヘシ

八 稻縱葉捲蟲
驅除豫防ノ方法ハ稻小螟蛉ニ同シ

九 稻象鼻蟲
イ 成蟲ハ捕蟲網ヲ以テ捕殺シ又ハ石油ヲ滴下シ拂ヒ落スヘシ
ロ 根部ニ附著セル幼蟲ハ捕殺スヘシ
ハ 畦畔及附近ノ雜草ハ刈リ取リ燒却スヘシ

十 臺灣夜盜蟲
イ 幼蟲ハ捕蟲器ヲ以テ捕殺スヘシ
ロ 卵塊ハ採集シテ潰殺スヘシ
ハ 溝渠ヲ開鑿シテ遮斷スヘシ

十一 蕃薯螟蟲
イ 被害莖及根ハ燒却スヘシ

十二 柑橘介殼蟲
イ 青酸瓦斯石油乳劑松脂合劑若ハ硫黃合劑驅除ヲ行フヘシ
ロ 被害甚タシキモノハ伐採燒却スヘシ

十三 鐵砲蟲
イ 成蟲ハ捕殺スヘシ
ロ 幼蟲ハ刺殺スヘシ
ハ 卵子ハ潰殺スヘシ

十四 桑鐵砲蟲
驅除豫防ノ方法ハ鐵砲蟲ニ同シ

十五 稻熱病
イ 被害甚タシキ病稻ハ刈リ取リ若ハ拔キ取リ燒却スヘシ
ロ 畦畔及附近ノ雜草ハ刈リ取リ燒却スヘシ

臺灣總督府告示第百十五號

臺灣國防用防禦營造物區域取締規則施行細則第四條及第五條ニ依ル願書書式左ノ通相定ム

明治四十一年十月一日　臺灣總督　伯爵佐久間左馬太

測量許可證下附願樣式(用紙半紙罫紙)

許可證下附願

作業ノ種類	測量　梯尺何分ノ一
目的	石炭鑛業願書添付(何々)ノ爲
作業ノ位置	何堡何街(庄)土名何ノ內第何區何號標ヨリ約何方(何間ノ點ヨリ何方ヘ何間何方ヘ何間ノ長方形(又ハ何形))地積何坪
作業ノ期限	許可ノ日ヨリ何日間
原圖ノ員數	何枚
測量ノ方法	平面ハ何々(測量器ノ名稱)ヲ用ヒ水準ハ何々(測量器ノ名稱)ヲ用ユ(又ハ水準ハ目測トス)
作業實施者	自身從事(何堡何街(庄)土名何番地何某ヲシテ從事)ス(セシム)
素圖野簿及原圖ノ取扱法	自身嚴重ニ保管シ必要ナキニ至レハ御部ニ上納ス

右之通リ作業ニ從事致度原圖完成ノ上ハ直ニ御檢査ニ供シ且ツ御下命ノ際ハ何時ニテモ上納可仕臺灣國防用防禦營造物區域取締規則ニ基キ此段相願候也

年月日　住所　氏名印

基隆(澎湖島)要塞司令官　殿

注意

一 作業位置書方ノ例左圖ニ在テハ第二區第一號標ヨリ約東南方二百間ノ點ヨリ東方ヘ三百間南方ヘ五百間ノ長方形地積十五萬坪ト記スヘシ其他之ニ倣フ

二 出願書他人ヲシテ作業セシムル場合ニ在テハ常ニ之カ監視ヲナスモノトス作業者犯則ノ事アル時ハ其責出願者ト共ニ免レサル者トス

三 承認證ヲ請求スル場合モ此例ニ準ス

地圖謄寫許可證下附願樣式(用紙半紙罫紙)

許可證下附願

作業ノ種類	地圖謄寫
地圖ノ種別	明治何年何月何日第何號許可證(臺灣總督府鑛第何號鑛區圖)(何々)ノ分
目的	何々鑛業願書ニ添付(總督ノ命令ニ依リ進達)(何々ノ爲)
作業ノ位置	何堡何街(庄)土名何何番地何某方
作業ノ期限	許可ノ日ヨリ何日間
謄寫員數	何枚一枚ハ要塞司令部ニ上納何枚ハ總督ニ提出

右ノ通地圖謄寫致度完成ノ上ハ直ニ御檢査ニ供シ可申臺灣國防用防禦營造物區域取締規則ニ基キ此段相願候也

年月日　住所　氏名印

基隆(澎湖島)要塞司令官　殿

注意

承認證ヲ請求スル場合モ此例ニ準スルモノトス

摸寫圖(錄取)許可證下附願樣式(用紙半紙罫紙)

許可證下附願

作業ノ種類	摸寫(錄取)
目的	何々ノ爲
作業ノ位置	何堡何街(庄)土名何ノ內第何區第何號標ヨリ約何方(何間ノ點ヨリ何方ヘ何間何方ヘ何間ノ長方形地積何坪
作業ノ期限	許可ノ日ヨリ何日間
摸寫圖(錄取)ノ員數	何枚
作業實施者	自身從事(何堡何街(庄)土名何番地何某ヲシテ從事)ス(セシム)
摸寫圖錄取ノ取扱法	自身嚴重ニ保管シ必要ナキニ至レハ御部ヘ上納ス

右ノ通摸寫(錄取)致度原圖(稿)完成ノ上ハ直チニ御檢査ニ供シ且御命令有之候節ハ何時ニテモ上納可仕臺灣國防用防禦營造物區域取締規則ニ基キ此段相願候也

年月日　住所　氏名印

基隆(澎湖島)要塞司令官　殿

注意

承認證ヲ請求スル場合モ此例ニ準ス

撮影許可證下附願樣式(用紙半紙罫紙)

許可證下附願

作業ノ種類	何々撮影
目的	營業(何某ヨリ依賴)(紀念若ハ研究)ノ爲
作業ノ位置	何堡何街(庄)何々
原版ノ員數	何枚
復寫ノ員數	何枚
作業ノ期限	許可ノ日ヨリ何日間(何年何月何日)

右ノ通撮影致度完成ノ上ハ他ニ搬出セサル以前ニ於テ一葉ヲ上納御檢査相受ケ可申又原版ハ何時ニテモ御檢査ニ可供臺灣國防用防禦營造物區域取締規則ニ基キ此段相願候也

年月日　住所　氏名印

基隆(澎湖島)要塞司令官　殿

注意

承認證ヲ請求スル場合モ此例ニ準ス

不燃質工作物ノ新設(變更)許可證下附願樣式(用紙美濃罫紙)

許可證下附願

作業ノ種類	不燃質工作物ノ新設(變更)
目的	住家(倉庫)(何々)ノ爲
作業ノ位置	何堡何街(庄)土名何
設計	別紙圖書ノ通リ
作業ノ期限	許可ノ日ヨリ何年(月)間

右ノ通作業ニ從事致度臺灣國防用防禦營造物區域取締規則ニ基キ此段相願候也

年月日　住所　氏名印

臺灣總督　殿

注意

承認證ヲ請求スル場合モ此例ニ準スルモノトス

第7586号 本文

（溝渠（堤塘）（道路）（橋梁）（鐵道）（隧道）（永久橋梁）ノ新設變更）（水面埋立）許可證下附願樣式（用紙美濃罫紙）

許可證下附願

作業ノ種類	溝渠（堤塘）（道路）（橋梁）（鐵道）（隧道）（永久橋梁）ノ新設（變更）（水面埋立）
目的	何々ノ爲
作業ノ位置	何縣何街（庄）土名何ノ內
設計	別紙圖書ノ通リ
作業ノ期限	許可ノ日ヨリ何年（月）間

右ノ通作業ニ從事致度依テ臺灣國防用防禦營造物區域取締規則ニ基キ此段相願候也

年月日　住所　臺灣總督　殿　氏名印

注意

承認證ヲ請求スル場合モ此例ニ準スルモノトス

地表高低永久變更許可證下附願（用紙美濃罫紙）

許可證下附願

作業ノ種類	地表高低永久變更
目的	石炭採掘（何々）ノ爲
作業ノ位置	何堡何街（庄）土名何ノ內
設計	別紙圖書ノ通リ
作業ノ期限	許可ノ日ヨリ何年（月）間

右ノ通リ作業ニ從事致度臺灣國防用防禦營造物區域取締規則ニ基キ此段相願候也

年月日　住所　臺灣總督　殿　氏名印

注意

承認證ヲ請求スル場合モ此例ニ準スルモノトス

正誤

一昨五日農商務省告示第二百四十四號中登錄番號第一五四號ノ入漁料每年金十圓ノ一行ハ同第一五三號入漁區域ノ次ニ入ルヘキノ誤同第一六三號入漁區域ノ第二五八號ハ第二五二號同第一六四號石花菜漁業ノ下自二月一日ハ自三月一日同第一六五號入漁區域ノ第一六五漁場ハ第一六五號漁場ノ誤モ誤

同上登錄番號第一六一號根八手網漁業ノ下鮭ハ鰷同第一六六號鉾突漁業ノ下鯆ハ鰡ノ孰モ誤植

農商務書記官

○敍任及辭令

○明治四十一年十月六日

敍大勳位授菊花大綬章　元帥陸軍大將從二位勳一等功一級侯爵　野津　道貫

兼任外務書記官　農商務書記官正六位勳五等　鵜見左吉雄

敍高等官四等　任京都帝國大學法科大學助敎授　從七位　小川鄕太郎

敍高等官六等　任農事試驗場技手　桑名伊之吉

敍高等官七等　任檢查官補兼衆議院書記官　衆議院書記官錄大屬　工藤　重義

敍高等官六等　福井縣工業試驗場技師兼福井縣工業講習所技師ニ任ス　伊勢　鉾三

大分縣農事講習所技師ニ兼任ス　大分縣農業技師從七位　衞藤　一六

公使館二等書記官從六位勳六等　松田　道一

露國亞國皇帝陛下ヨリ贈與シタル神聖スタニスラス級附金製記章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　菱屋正三郎

陸軍步兵大佐從五位勳三等功三級　町田　經宇

西班牙國皇帝陛下ヨリ贈與シタル陸軍有功第三級勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　專賣局參事從六位勳六等　杉浦　儉一

清國皇帝陛下ヨリ贈與シタル二等第三雙龍寶星ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　陸軍主計監正五位勳二等功三級　遠藤　愼司

韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル勳一等八卦章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　陸軍步兵大佐從五位勳五等　清水　金生

韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル勳二等八卦章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　福岡縣港務官從六位勳六等　吉川新次郎

（各通）　福岡縣港務官從七位勳六等　明石　幸橘

韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル勳四等八卦章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　陸軍步兵曹長勳七等功七級　渡邊　壽太

（各通）　陸軍步兵曹長勳七等功七級　前田　一郎

韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル勳六等八卦章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　陸軍步兵曹長　倉富德三郎

韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル韓國皇太子殿下嘉禮時紀念章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　陸軍步兵曹長　倉富德三郎

韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル韓國皇帝陛下卽位禮式紀念章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル（以上十月九日二賞勳局）　從六位勳六等　富田　耕司

（各通）　鐵道技手勳八等　小栗盛三郎

露西亞國皇帝陛下ヨリ贈與シタル神聖スタニスラス第三等勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　統監府通信技師　岡本桂次郎

韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル勳二等八卦章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　統監府書記官　佐々木正太

（各通）　陸軍步兵中佐從五位勳三等　兒島惣次郎

韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル勳三等太極章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　陸軍步兵中佐正六位勳四等功四級　加藤貞次郎

陸軍步兵大尉正七位勳五等功五級　佐々木久雄

（各通）　陸軍工兵大尉正七位勳五等　渡部　象

韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル勳四等太極章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　陸軍步兵中尉從七位勳五等　安達　堅造

韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル勳五等太極章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　陸軍步兵中尉從七位勳六等　上野　湊

韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル勳六等八卦章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　陸軍步兵曹長勳七等　石原　直一

韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル勳六等八卦章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル　陸軍步兵中佐從六位勳四等　篠田　金

（各通）　陸軍一等戰醫正七位勳五等功五級　小林駒太郎

韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル韓國皇帝陛下卽位禮式紀念章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル（以上十月十日同）　從六位勳六等　富田　耕司

土木局兼勤ヲ命ス　一級俸下賜　四級俸下賜（以上十月内務省）

横濱稅關檢查課長兼鑑定課長ヲ命ス　神戶稅關檢查課長兼鑑定課長ヲ命ス

長崎稅關檢查課長兼鑑定課長ヲ命ス（以上十月大藏省）

（各通）

東京陸軍兵器支廠附被免　補宇都宮陸軍兵器支廠長

兼補陸軍技術審查部審查官　陸軍砲工學校敎官陸軍工兵少佐　福井　第三

陸軍野戰砲兵射擊學校長陸軍砲兵大佐　木下宇三郎

陸軍野戰砲兵射擊學校長陸軍砲兵大佐　筑紫　熊七

陸軍重砲兵射擊學校長陸軍砲兵大佐　牧野　清八

近衞工兵大隊長陸軍工兵大佐　武內　徹

近衞輜重兵大隊長陸軍輜重兵大佐　奈良崎太郎

輜重兵第一大隊長陸軍輜重兵大佐　和崎　恭弼

參謀本部部員兼元帥副官陸軍步兵中佐　中川　幸助

野砲兵第十八聯隊長陸軍砲兵中佐　河北榮太郎

陸軍野戰砲兵射擊學校敎官陸軍砲兵中佐　長尾　駿郎

（各通）　陸軍步兵中佐正六位勳三等　藤津　準一

參謀本部部員兼海軍大學校敎官陸軍工兵中佐　篠田　金

工兵第一大隊長陸軍工兵中佐　矢野目孫一

陸軍省軍務局課員陸軍輜重兵中佐　竹內　赳夫

陸軍省軍務局課員陸軍砲兵少佐　大鈴　弘武

陸軍步兵中尉從七位勳六等　安達　堅造

陸軍省軍務局課員陸軍砲兵少佐　吉田　豐彥

陸軍步兵中尉從七位勳六等　吉田　豐彥

陸軍省軍務局課員陸軍砲兵少佐　今西甚五郎

陸軍步兵中尉從七位勳六等　上野　湊

陸軍省軍務局課員陸軍工兵少佐　德永　熊雄

陸軍步兵曹長勳七等　石原　直一

陸軍省軍務局課員陸軍工兵少佐　鳴瀧　紫麿

電信大隊附陸軍工兵少佐　佐藤　信

陸軍步兵曹長勳七等　石原　直一

陸軍技術審查部御用掛兼勤ヲ命ス　陸軍砲兵少佐　小林多之助

（各通）　陸軍砲兵大尉　作田清之助

陸軍輜重兵中尉　溥　義雄

仙臺陸軍兵器支廠附被免　陸軍砲兵少佐　小林多之助

補高田陸軍兵器支廠長　陸軍砲兵大尉　作田清之助

（各通）　陸軍輜重兵中尉　溥　義雄

補高田陸軍兵器支廠廠員　陸軍砲兵少佐　酒寄山三郎

陸軍砲兵大尉　伊吹　晴堅

（各通）　陸軍輜重兵中尉　齊木　齊

東京陸軍兵器支廠附被免　陸軍砲兵少佐　酒寄山三郎

補宇都宮陸軍兵器支廠長　有川　鷹一

許可 7586 本本

陸軍砲兵大尉　伊吹晴堅
陸軍輜重兵中尉　齊木齊
（各通）
補宇都宮陸軍兵器支廠廠員

陸軍砲兵少佐　萬年眞清
陸軍輜重兵中尉　木川豐太郎
（各通）
名古屋陸軍兵器支廠附被免

陸軍砲兵少佐　萬年眞清
補豐橋陸軍兵器支廠長

陸軍輜重兵中尉　木川豐太郎
補豐橋陸軍兵器支廠廠員

野砲兵第二十一聯隊中隊長陸軍砲兵大尉　安井正吾
免本職補豐橋陸軍兵器支廠廠員

陸軍砲兵少佐　長澤由之助
陸軍砲兵大尉　嶺村敏介
陸軍輜重兵大尉　佐藤政四郎
（各通）
大阪陸軍兵器支廠附被免

陸軍砲兵少佐　長澤由之助
補京都陸軍兵器支廠長

陸軍砲兵大尉　嶺村敏介
陸軍輜重兵大尉　佐藤政四郎
（各通）
補京都陸軍兵器支廠廠員

陸軍砲兵少佐　丸山金太
退役被仰付

陸軍步兵大尉　上島源二
陸軍步兵大尉　相川亭藏
陸軍步兵大尉　宮田正次
陸軍步兵中尉　中村直藏
陸軍步兵中尉　野上繼志
陸軍步兵中尉　小澤庸夫
陸軍騎兵中尉　宇佐美興屋
陸軍砲兵中尉　平川爲助
陸軍砲兵中尉　高和三千樹
（各通）
賜一等給（以上十月六日陸軍省）

海軍兵曹長　三宅九一
囑掌砲長兼掌水雷長被免

海軍兵曹長　三宅九一
待命被仰付　但横須賀ニ滯在スヘシ（以上十月五日海軍省）

佐世保豫備艦部部員兼佐世保海軍港務部部員海軍中佐　馬場祐內
免本職並兼職補敷島航海長

敷島航海長海軍中佐　田代已代次
免本職補佐世保豫備艦部部員兼佐世保海軍港務部部員

海軍少佐　長澤直太郎
免佐世保鎭守府附補磐手分隊長

磐手分隊長海軍大尉　富永龍太郎
免本職

海軍大尉　富永龍太郎
待命被仰付　但吳ニ滯在スヘシ

海海中尉　中岡俊三
佐世保鎭守府附被免香取乘組被仰付

海軍中尉　井上鐵彦
香取乘組被免

海軍中尉　井上鐵彦
待命被仰付　但横須賀ニ滯在スヘシ

海軍機關兵曹長　大野藤右衛門
佐世保鎭守府附被免漣乘組被仰付

海軍機關兵曹長　山口巽一
漣乘組被免佐世保鎭守府附被仰付（以上十月六日同）

判事　松田利吉
補磐井區裁判所判事

判事　大和田三治
補新庄區裁判所判事

磐井區裁判所判事　松田利吉
九級俸下賜

新庄區裁判所判事　大和田三治
十級俸下賜

新庄區裁判所判事　大瀧信彌
退職ヲ命ス（以上十月五日司法省）

司法省參事官　甲斐一之
六級俸下賜

松山地方裁判所判事兼松山區裁判所判事　古市熊之進
解兼職

松山地方裁判所判事　打下重勝
兼補松山區裁判所判事

司法官試補　奧岡喜藏
司法官試補　高井賢三
（各通）
東京區裁判所檢事代理ヲ解ク

司法官試補　西谷喜郎
司法官試補　篠原三郎
（各通）
東京區裁判所檢事代理ヲ命ス（以上十月六日同）

文部省視學官　瀨戶虎記
長崎高等商業學校長事務取扱ヲ命ス

長崎高等商業學校長　隈本有尙
長崎高等商業學校教授　山川信次郎
長崎高等商業學校教授　守屋源次郎
（各通）
長崎高等商業學校教授　山崎彌久太郎
文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス

東京帝國大學農科大學教授理學博士　石川千代松
動物學昆蟲學養蠶學第一講座擔任及水產學第二講座分擔ヲ免ス（以上十月五日文部省）

東京帝國大學工科大學助教授兼農商務技師　佐川榮次郎
應用地質學研究ノ爲滿二箇年半英國米國及獨國ヘ留學ヲ命ス

京都帝國大學理工科大學助教授　愛知敬一
理論物理學研究ノ爲滿二箇年半獨國英國及米國ヘ留學ヲ命ス（以上十月六日同）

種畜牧場技師　橋本德壽
農商務技師　佐藤悠次郎
農商務技師　石崎芳吉
種畜牧場技師　岩波六郎
（各通）
第四回中國六縣聯合畜產共進會出品審査官ヲ命ス（十月六日農商務省）

海事局技師　吉澤源作
山形縣下ヘ出張ヲ命ス

海事局技師　山本幸男
神奈川縣足柄下郡眞鶴村ヘ臨機出張ヲ命ス（以上十月二日遞信省）

遞信事務官補　松田秀太郎
赴任ノ途次滯京ヲ命ス（十月三日同）

臺灣總督府參事官　大津麟平
臺灣公立學校職員恩給審査委員ヲ免ス

臺灣總督府祕書官　三村三平
臺灣公立學校職員恩給審査委員ヲ命ス

休職臺灣總督府醫院醫長　迎俊造
臺灣公立學校職員恩給顧問醫ヲ免ス

臺灣總督府醫院醫長醫學博士　稻垣長次郎
臺灣公立學校職員恩給顧問醫ヲ命ス（以上九月二十六日臺灣總督府）

正誤

去月二十六日本欄五六八頁上段大八木熊太郎ノ上功四級ハ功五級ノ誤モ報告誤（賞勳局書記官）

○宮廷錄事

○皇后宮行啓　皇后陛下ハ御豫定ノ如ク昨六日午前十時三十分御出門新宿御苑ヘ行啓午後四時三十分還御アラセラレタリ

○皇族假服　博恭王妃經子殿下ハ子爵松平忠和嗣子正五位松平忠威妻理子逝去ニ付キ從父姉ノ御續ヲ以テ定式ノ假服ヲ受ケサセラル

○皇族發着　貞愛親王殿下ハ昨六日御出發長野市ヘ御旅行アラセラレタリ

○彙報

○官廳事項

○獨國大使館譯官見習異動　在本邦獨逸國大使館ニ勤務ノ譯官見習ドクトル、シモン本月一日ヨリ在神戶同國領事館ノ館務補助ヲ命セラレ又在長崎同國領事館ニ勤務ノ譯官見習ブットマン去月十八日著京當分ノ內再ヒ同國大使館ニ勤務ノ旨同國大使ヨリ去月十九日附ヲ以テ通知アリ

○官吏發著　過般長崎縣東彼杵郡大野原ヘ出張ノ木村第十八師團長ハ本月一日、佐賀縣大野原ヘ出張ノ中田佐世保要塞司令官ハ同二日、戰術科學生野外戰術實施演習實視ノタメ栃木、群馬、埼玉三縣下ヘ出張ノ陸軍騎兵實施學校長吉田平太郞ハ一昨五日孰モ歸著◎長崎縣東彼杵郡大野原ヘ出張ノ第十八師團參謀長宇宿行輔ハ本月一日歸著更ニ名影射擊臨檢ノタメ大村ニ向ヒ同三日、押上陸軍兵器本廠長ハ大阪、名古屋兵器支廠檢査ノタメ一昨五日出發、山梨縣吉田地方ヘ出張ノ瀧田野砲兵第一旅團長ハ同日歸京更ニ近衞野砲兵聯隊並ニ野砲兵第十四聯隊第三期檢閱ノタメ千葉縣下志津原ニ向ヒ即日、有坂陸軍技術審査部長ハ各種重砲試驗ノタメ大阪及泉州脊木射場ニ向ヒ昨六日孰モ出發◎鑾庭野、日出生臺、三瓶原、高師原、大野原地方ヘ出張ノ大迫野戰砲兵監ハ本月四日歸京セリ◎曩ニ上京ノ佐久間臺灣總督ハ一昨五日、大島臺灣總督府民政長官、同府專賣局技師木科七三郎ハ昨六日、同府鐵道部事務官秋山清八ハ今七日孰モ出發歸任ス

判決

○辯護士懲戒判決　東京地方裁判所所屬辯護士川島龜夫辯護士會會則違犯事件ニ付キ本年一月二十九日東京控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ニ於テ左ノ如ク判決シ被告ヨリ控訴ヲ爲シタルニ去月十九日大審院ニ於ケル懲戒裁判所ニ於テ左ノ如ク判決セリ

判決書

東京市芝區琴平町三番地
辯護士　川島　龜夫

右辯護士懲戒事件ニ付當院檢事長代理檢事黑川穰立會判決ヲ爲ス如左

主文

川島龜夫ヲ過料金五拾圓ニ處ス

理由

被告龜夫ハ東京地方裁判所所屬辯護士會ニ加入シ其職務ニ從事中高橋卯之助外四名詐欺取財被告事件ニ付東京地方裁判所カ第一審ノ裁判ヲ爲シタル當時ヨリ引續キ同人ノ爲メ辯護ヲ擔任シ同事件ノ記錄ヲ閲覽シ卯之助ニ對スル起訴狀ノ曾テ存在セシコトヲ知リ居リタルヲ以テ明治三十九年九月中同事件カ宮城控訴院ノ判決ニ對スル上告ニヨリ大審院ニ繋屬シタル際卯之助ヨリ該起訴狀ノ存在セサルコトヲ聞キ是レ卯之助等ニ於テ或方法ヲ講シ起訴狀ヲ毀棄シタルモノナラントノ疑ヒヲ抱キ同月二十八日大審院ニ至リ記錄ヲ閲覽シ其目錄中東京地方裁判所豫審ト題シタル初筆ニ「起訴狀」「一月二三日」ナル記載アリ而モ該記錄中ニ之レナク且其丁數「一六」ノ六ヲ七ニ其次項ノ「勾引狀一七」ノ「七」ヲ九ニ揷改シタル形跡アルヲ見是レ畢竟宮城控訴院ノ判決以後卯之助等ニ於テ起訴狀ヲ毀棄シタルモノナルコトヲ察知シタルニ拘ラス初ヨリ起訴狀ナカリシコトヲ主張シ得ヘシトナシ同年十月三日附ノ上告趣旨擴張書第四點ニ「第二ノ事實ニ對スル起訴狀ナキニ之ヲ有罪トシテ處罰シタルハ訴ナキニ審理シタル不法アルモノニシテ第二ノ事實ニ對シテハ公訴不受理ノ判決アルヘキモノナル旨」ヲ記載シ同月十五日大審院第二刑事部法廷ニ於テ其趣旨ヲ辯論シタルモノナリ

右ノ事實ハ被告龜夫カ當公廷ニ於テ自分ハ初メ檢事トナリ次テ司法省參事官兼同祕書官トナリ明治三十一年十一月末ニ東京地方裁判所所屬辯護士トナレリ而シテ高橋卯之助外四名詐欺取財被告事件ニ付東京地方裁判所カ第一審ノ裁判ヲ爲シタル當時ヨリ卯之助ノ辯護人トナリ爾後第二審上告審ニ至ル迄同人ノ辯護ヲ擔任シ尙宮城控訴院ノ判決ニ對シテ卯之助カ再度上告スルトキニモ亦同人ノ辯護人トナリタリ其再度上告ノ際即チ明治三十九年九月二十七日ニ卯之助カ自宅ニ來リ刑事事件ニ付起訴狀カナカリシトキハ如何ニナルモノカト尋ネタルニヨリ自分ハ起訴狀ナキトキハ公訴不受理トナルヘキ旨ヲ答ヘ置ケタルニ同人ハ自己ノ事件ノ起訴狀ナキ旨ヲ話シタルニヨリ右ハ誰ヨリ聞キシヤト推問シタル處前田辯護士ノ事務員ヨリ聞キシ旨ヲ答ヘタリ其時自分ハ其レハ大變ナリ若シ起訴狀カナキトキハ事面倒ニナル故辯護ヲ斷ハラネハナラヌト言ヒ置ケ尙當時自分ノ心中ニテハ怪シキコトナリ或ハ利害關係人カ細工ヲナシタルニアラサルカト疑ヒタルニヨリ若シ細工ヲシタトスレハ共犯ノ平塚茂助ハ在監者ナリ卯之助ハ保釋中ナリシ故第一ニ卯之助ヲ疑フ樣ナ事ニナルヘシ若シヤ心得違ヒノ事ハナキヤト警告ヲ加ヘタル處同人ハ決シテ自分等ノ所爲ニアラサルニヨリ其點ハ安心シテ記錄ヲ取調ヘ呉レト云ヒタルヲ以テ兎ニ角記錄ヲ調査スルコトトナシ翌日大審院ニ至リ記錄ヲ閲覽シタル處起訴狀ナク又附屬記錄中ニモ見當ラサリシ依テ一應書記ニ其旨ヲ申述ヘ置キ再ヒ調査セシ處記錄中ノ四十五丁迄ハ羅馬數字ニテ丁數ヲ付シアルニ次ニハ一七丁トナリ日本數字ニテ丁數ヲ付シアルニ付四十五丁迄ノ分ハ警視廳ヨリ廻リシ書類ニテ日本數字ノ分ハ檢事ノ書類ニシテ此一六丁ノ處ニ起訴狀カアリシヲ豫審ニテ取調ノ便宜上之ヲ別括ニナシ居リシカ其儘ニ綴込マサリシモノニテ全ク紛失セシモノト考ヘ左スレハ其責ハ裁判所ニアリ利害關係人ニ疑ヒノ掛ル譯ハナシト思ヒシニ付辯護ハ辭セスニ進行スルコトト爲シ十月三日ニ上告趣意書ヲ差出シ同月十五日ノ公判ニ於テ起訴狀ナキ以上ハ公訴不受理ノ判決アルヘキモノナリトノ趣旨ヲ辯論シタル旨ヲ供述スルト仙臺地方裁判所明治四十年檢第八一三號高橋卯之助外一名ニ對スル官文書毀棄及官文書變造行使被告事件ノ記錄中卯之助ノ豫審第二回調書ニ自分カ川島辯護士ノ處ヘ行キ記錄中ニ起訴狀カ一枚見當ラサルコトヲ話シタル處川島ハ左樣ナル筈ナシ自分ハ最初ヨリ其事件ニ關係シテ居リ見タコトモアリ又自分ハ元檢事モシテ居リタルニヨリ當該檢事ニテ起訴狀ヲ落スト云フコトハナキ筈ナリト云ハレ若シ起訴狀カ無キ事ニナレハ裁判所ニ於テモ其儘ニ爲シ置カサルニヨリ中中面倒ナルコトニナルヤモ知レサルノミナラス細工ヲシテ起訴狀ナトヲ取リタル場合ニハ官文書毀棄ト云フ重大ナル事件ニモナルノテアルト云ヒ口ニ出ササルモ如何ニモ自分等カ細工テモシタノテハナキヤト云フ樣ナ妙ナ考ヲ持タレタル樣子ナリシ加之辯護人トシテ最初ヨリ其記錄ヲ見テ居ルノテアリ又茲ニテ一番先キニ見テ起訴狀カナクナツテ居レハ自分ニ嫌疑カ掛ル樣ニテハ困ル故書記ニテモ立會サセテ閲覽シナケレハナラヌ樣ナ都合ナル旨ヲ話サレタルヲ以テ自分ハ前回申上タル通リ上告ヲ取消ソウカト申シタル處何レトモ明日ニモ書類ヲ取調ヘタル上ノコトニシタレハヨロシイトノ事ナリシ次ノ日川島カ記錄ヲ見タ處起訴狀カ一枚ナク且其索引モ變更サレテ居ル部分カアリタリトノ事ニテ或ハ控訴院ニ送ル際送ラサリシカモ知レスト申ハ疑ヒヲ持チ居リタル樣子ナリシ而シテ自分ハ起訴狀カ無キコトニナレハ如何ナルカト尋ネタルニ起訴狀カナケレハ公訴不受理トナリ新ニ取調ヘラルルコトナルト云ヒ且辯明書ニハ起訴狀ノ無キコトヲ理由ヲ付シテ書クトノコトニテ其テハ却テ面倒ニナルカラ其事ハ書カサルモ宜シカラントノコトヲ申シタリトノ趣旨ノ記載アルト東京地方裁判所明治三十七年檢第七三二號窪田清貢外四名詐欺取財被告事件ノ一件記錄中當初上告ノ際高橋卯之助

第7586号 本文

辯護人米原芳藏ハ明治三十八年九月三日附ヲ以テ高橋卯之助外三名辯護人高木益太郎ハ同年同月四日附ヲ以テ何レモ卯之助等ニ對スル起訴狀ノ存在ヲ前提ト爲シ原判決ヲ非難シタル辯明書ノ存在セルト同記錄中高橋卯之助辯護人被告龜夫ヨリ明治三十九年十一月三日附ニテ上告趣旨擴張書ト題シ前記事實中ニ摘示セシ文詞ヲ記載シタル書面ノ存在セルト同記錄中明治三十九年十一月八日作成ノ大審院公判始末書ニ同年十月十五日同院第二刑事部法廷ニ於テ高橋卯之助辯護人川島龜夫ハ右上告趣旨擴張書ノ趣旨ヲ辯明シ原判決ノ破毀ヲ要求シタル旨ノ記載アルト同記錄中目錄ノ部東京地方裁判所豫審ト題シタル初筆ニ「起訴狀」「一月二三日」ナル記載アリ其下丁數欄ニ「一六」トアル六ヲ七ニ其次項「勾引狀」「一七」トアル七ヲ九ニ描改シタル形跡ノ存在セルト前段說述シタル高橋卯之助鈴木清作ニ對スル官文書毀棄及官文書變造行使被告事件ノ記錄中宮城控訴院ノ判決謄本ニ高橋卯之助ハ鈴木清作ヲ教唆シテ自己ニ對スル詐欺取財被告事件ニ付其記錄中明治三十七年一月二十三日附東京地方裁判所檢事大場茂馬ノ作成ニ係ル被告卯之助等ニ對スル豫審請求書ヲ毀棄セシメタル所爲アリトナシ輕懲役七年ニ處シタル仙臺地方裁判所ノ判決ニ對スル卯之助等ノ控訴ヲ明治四十年十月二十六日棄却スル判決ヲ爲シタル旨ノ記載アルト參考人高橋卯之助カ當公廷ニ於テ自分ハ右判決ヲ執行セラレ目下服役中ナル旨ヲ供述スルトヲ綜合參酌シテ認定ス

右龜夫ノ所爲ハ辯護士ノ體面ヲ汚スモノニシテ東京辯護士會會則第三十九條ニ違反シ辯護士法第三十三條第二號ニ則リ五拾圓ノ過料ニ處スヘキモノトス

以上ノ理由ナルニヨリ主文ノ如ク判決ス

明治四十一年一月二十九日

東京控訴院ニ於ケル懲戒裁判所

裁判長判事　長谷川　喬
判事　牧野　菊之助
判事　鈴木　英太郎
判事　三田　幸司
判事　薮淵　清雄
裁判所書記　澤路　茂樹

明治四十一年(な)第一號

判決書

東京市芝區琴平町三番地
辯護士　川島　龜夫

右辯護士懲戒事件ニ付東京控訴院ニ於ケル懲戒裁判所ノ言渡シタル判決ニ對シ被告ヨリ控訴ヲ爲シタルニ因リ檢事總長松室致代理檢事板倉松太郎立會審理判決スルコト左ノ如シ

主文

本件控訴ハ之ヲ棄却ス

理由

被告龜夫ハ東京地方裁判所所屬辯護士會ニ加入シ其業務ニ從事中高橋卯之助外四名詐欺取財被告事件ニ付東京地方裁判所カ第一審ノ裁判ヲ爲シタル當時ヨリ引續キ同人ノ辯護ヲ擔任シ同事件ノ記錄ヲ閱覽シ卯之助ニ對スル起訴狀ノ曾テ存在セシコトヲ知リ居リタルヲ以テ明治三十九年九月中同事件カ宮城控訴院ノ判決ニ對スル上告ニヨリ大審院ニ繫屬シタル際卯之助ヨリ該起訴狀ノ存在セサル旨ヲ聞キ是レ卯之助等ニ於テ或方法ヲ以テ起訴狀ヲ毀棄シタルモノナラントノ疑ヲ抱キ同月二十八日大審院ニ至リ記錄ヲ一覽シ其目錄中東京地方裁判所豫審ト題シタル初筆ニ「起訴狀」「一月二三日」ナル記載アリ而モ該記錄中ニ之レナク且其丁數「一六」ノ「六」ヲ七ニ其次項ノ「勾引狀一七」ノ「七」ヲ九ニ描改シタル形跡アルヲ見是レ畢竟宮城控訴院ノ判決以後卯之助等ニ於テ起訴狀ヲ毀棄シタルモノナルコトヲ察知シタルニ拘ラス初ヨリ起訴狀ナカリシコトヲ主張シ得ヘシトナシ同年十月三日附ノ上告趣旨擴張書第四點ニ「第二ノ事實ニ對スル起訴狀ナキニ之ヲ有罪トシテ處罰シタルハ訴ナキニ審理シタル不法アルモノニシテ第二ノ事實ニ對シテハ公訴不受理ノ判決アルヘキモノナル旨」記載シ同月十五日大審院第二刑事部法廷ニ於テ其趣旨ヲ辯論シタルモノナリ

右事實ハ被告龜夫カ原審公廷ニ於ケル「自分ハ初メ檢事トナリ次テ司法省參事官兼同秘書官トナリ明治三十一年十一月末ニ東京地方裁判所所屬辯護士トナレリ而シテ高橋卯之助外四名詐欺取財被告事件ニ付東京地方裁判所カ第一審ノ裁判ヲ爲シタル當時ヨリ卯之助ノ辯護人トナリ爾後第二審上告審ニ至ル迄同人ノ辯護ヲ擔任シ尙宮城控訴院ノ判決ニ對シテ卯之助カ再度上告スルトキニモ亦同人ノ辯護人トナリタリ其再度上告ノ際卯之助カ自宅ニ來リ刑事事件ニ付起訴狀カナカリシトキハ如何ナルモノカト尋ネタルニヨリ自分ハ起訴狀ナキトキハ公訴不受理トナルヘキ旨ヲ言ヒ聞ケタルニ同人ハ自己ノ事件ノ起訴狀ナキ旨ヲ話シタルニヨリ右ハ誰ヨリ聞キシヤト推問シタル處前田辯護士ノ事務員ヨリ聞キシ旨ヲ答ヘタリ其時自分ハ其レハ大變ナリ若シ起訴狀カナキトキハ事面倒ニナル故辯護ハ斷ハラネハナラヌト言ヒ聞ケ尙當時自分ノ心中ニテハ怪シキコトナリ或ハ利害關係人カ細工ヲナシタルニアラサルカト疑ヒタルニヨリ若シ細工ヲシタトスレハ共犯ノ平塚茂助ハ在監者ナリ卯之助ハ保釋中ナリシ故第一ニ卯之助ヲ疑フ樣ナ事ニナルヘシ若シヤ心得違ヒノ事ハナキヤト警告ヲ加ヘタル處同人ハ決シテ自分等ノ所爲ニアラサルニヨリ其點ハ安心シテ記錄ヲ取調ヘ呉レト云ヒタルヲ以テ兎ニ角記錄ヲ調査スルコトヽナシ翌日大審院ニ至リ記錄ヲ閱覽シタル處起訴狀ナク又附屬記錄中ニモ見當ラサリシ依テ一應書記ニ其旨ヲ申述ヘ置キ再ヒ調査セシ處記錄中ノ四十五丁迄ハ羅馬數字ニテ丁數ヲ付シアルニ次ニハ一七丁トナリ日本數字ニテ丁數ヲ付シアルニ付四十五丁迄ノ分ハ警視廳ヨリ廻リシ書類ニテ日本數字ノ分ハ檢事ノ書類ニシテ此一六丁ノ處ニ起訴狀カアリシヲ豫審ニテ取調ノ便宜上之ヲ別括ニナシ居リシカ其儘ニ綴込マサリシモノニテ全ク紛失セシモノト考ヘ左スレハ其責ハ裁判所ニアリ利害關係人ニ疑ヒノ掛ル譯ハナシト思ヒシニ付辯護ハ辭セスニ進行スルコトヽ爲シ十月三日ニ上告趣意書ヲ差出シ同月十五日ノ公判ニ於テ起訴狀ナキ以上ハ公訴不受理ノ判決アルヘキモノナリトノ趣旨ヲ辯論シタル旨ノ供述、仙臺地方裁判所明治四十年檢第八一三號高橋卯之助外一名ニ對スル官文書毀棄及官文書變造行使被告事件ノ記錄中卯之助ノ豫審第二回調書ニ「自分カ川島辯護士ノ處ヘ行キ記錄中ニ起訴狀カ一枚見當ラサルコトヲ話シタル處川島ハ左樣ナル筈ナシ自分ハ最初ヨリ其事件ニ關係シテ居リ見タコトモアリ又自分ハ元檢事モシテ居リタルニヨリ當該檢事ニテ起訴狀ヲ落スト云フコトハナキ筈ナリト云ハレ若シ起訴狀カ無キ事ニナレハ裁判所ニ於テモ其儘ニ爲シ置カサルニヨリ中々面倒ナル事ニナルヤモ知レサルノミナラス細工ヲシテ起訴狀ナトヲ取リタル場合ニハ官文書毀棄ト云フ重大ナル事件ニモナルノテアルト云ヒ口ニ出サヽルモ如何ニモ自分等カ細工テモシタノテハナキヤト云フ樣ナ妙ナ考ヲ持タレタル樣子ナリシ加之辯護人トシテ最初ヨリ其記錄ヲ見テ居ルノテアル又茲ニテ一番先キニ見テ起訴狀カナクナッテ居レハ自分ニ嫌疑カ掛ル樣ニテハ困ル故書記ニテモ立會サセテ閱覽シナケレハナラヌ樣ナ都合ナル旨ヲ話サレタルヲ以テ自分ハ前回申上タル通リ上告ヲ取消ソウカト申シタル處何レトモ明日ニモ書類ヲ取調ヘタル上ノコトニシタレハヨロシイトノ事ナリシ次ノ日川島カ記錄ヲ見タ處起訴狀カ一枚ナク且其索引モ變更サレテ居ル部分カアリタリトノ事ニテ或ハ控訴院ニ送ル際送ラサリシカモ知レスト半ハ疑ヒヲ持チ居リタル樣子ナリシ而シテ自分ハ起訴狀カ無キコトヽナレハ如何ナルカト尋ネタルニ起訴狀カナケレハ公訴不受理トナルコトヽナルト云ヒ且辯明書ニハ起訴狀ノ無キコトヲ理由ヲ付シテ書クトノコトニテ其テハ却テ面倒ニナルカラ其事ハ書カサルモ宜シカランノコトヲ申シタリ」トノ趣旨ノ記載、東京地方裁判所明治三十七年檢第七三二號鑑田清運外四名詐欺取財被告事件ノ一件記錄中當初上告ノ際高橋卯之助辯護人米原芳藏ハ明治三十八年九月三日附ヲ以テ高橋卯之助外三名辯護人高木益太郎ハ同年同月四日附ヲ以テ何レモ卯之助等ニ對スル起訴狀ノ存在ヲ前提ト爲シ原判決ヲ非難シタル辯明書ノ存在、同記錄中高橋卯之助辯護人被告龜夫ヨリ明治三十九年十一月三日附ニテ上告趣旨擴張書ト題シ前記事實中ニ摘示セシ文詞ヲ記載シタル書面ノ存在、同記錄中明治三十九年十一月八日作成ノ大審院公判始末書ニ同年十月十五日同院第二刑事部法廷ニ於テ高橋卯之助辯護人川島龜夫ハ右上告趣旨擴張書ノ趣旨ヲ辯明シ原判決ノ破毀ヲ要求シタル旨ノ記載、同記錄中目錄ノ部東京地方裁判所豫審ト題シタル初筆ニ「起訴狀」「一月二三日」ナル記載アリ其下丁數欄ニ「一六」トアル六ヲ七ニ其次項「勾引狀」「一七」トアル七ヲ九ニ描改シタル形跡ノ存在、前段說述シタル高橋卯之助鈴木清作ニ對スル官文書毀棄及官文書變造行使被告事件ノ記錄中宮城控訴院ノ判決謄本ニ高橋卯之助ハ鈴木清作ヲ教唆シテ自己ニ對スル詐欺取財被告事件ニ付其記錄中明治三十七年一月二十三日附東京地方裁判所檢事大場茂馬ノ作成ニ係ル被告卯之助等ニ對スル豫審請求書ヲ毀棄セシメタル所爲アリトナシ輕懲役七年ニ處シタル仙臺地方裁判所ノ判決ニ對スル卯之助等ノ控訴ヲ明治四十年十月二十六日棄却スル判決ヲ爲シタル旨ノ記載、參考人高橋卯之助カ原審公廷ニ於テ自分ハ右判決ヲ執行セラレ目下服役中ナル旨ノ供述ヲ綜合參酌シテ之ヲ認定ス

右被告龜夫ノ所爲ハ辯護士タルノ體面ヲ汚スモノニシテ東京辯護士會會則第三十九條ニ違反シ辯護士法第三十三條第二號ニ則リ處分スヘキモノナレハ東京控訴院ニ於ケル懲戒裁判所カ右法條ヲ適用シ被告ヲ五拾圓ノ過料ニ處シタルハ相當ニシテ本件控訴ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルニ依リ主文ノ如ク判決ス

明治四十一年九月十九日

大審院ニ於ケル懲戒裁判所

裁判長判事法學博士　宮谷　鉎太郎
判事　鶴　丈一郎
判事　伊藤　悌治
判事　志方　鍛
判事　鶴見　守義
判事　末弘　嚴石
判事法學博士　橫田　秀雄
裁判所書記　納村　貫藏

警察

○爆發物品出入高　神奈川縣管理同縣久良岐郡大岡川村字堀ノ內爆發物貯庫及橫濱市中村町揮發物貯庫ニ於テ本年七月ヨリ九月ニ至ル三箇月間ニ出入セシ貨物數左ノ如シ

爆發物

	「ダイナマイト」	雷管	火藥	裝彈	「ゼラチン」	導火	「カーボナイト」	「グリクナイト」	「アモナール」	「モノベル」
前月ヨリ越高	六、五一九	四八九	三七	一二二	七二九	一四	一七	四七五	三〇〇	四〇〇
自七月至九月入庫高	一、九〇六	一〇〇	二八	一六	—	—	—	—	—	—
同出庫高	三、七一七	一一三	一三	二〇	七七	—	—	一一一	—	—
月末現在高	四、七〇八	四七六	五二	一一八	六五二	一四	一七	三六四	三〇〇	四〇〇

揮發物

	石油	松脂精	揮發油	「エム、シー」油
前月ヨリ越高	三六三、一三八	二、〇七一	一五、〇三九	二〇、〇一五
自七月至九月入庫高	八九、五九七	—	一三、二三〇	四、九〇六
同出庫高	一二三、七七三	三九〇	五、七〇八	五、九五五
月末現在高	三二八、九六二	一、六八一	二二、五六一	一八、九六九

褒賞

○藍綬褒章下賜　公衆ノ利益ヲ興セシ廉ヲ以テ賞勳局ニ於テ去月二十二日藍綬褒章ヲ下賜セラレタル者左ノ如シ

福島縣伊達郡粟野村　池田　常藏

資性溫厚夙ニ心力ヲ養蠶製種ノ事業ニ竭シ明治九年選マレテ蠶種會議局議員トナリ尋テ委員ニ擧ケラレ輸出蠶種ノ檢査ニ從ヒ其粗製濫造ノ弊ヲ憂フルヤ同志ヲ糾合シテ一社ヲ組織シ推サレテ社長トナリ專ラ蠶種ノ精選ニ努ム蠶期ニ至レハ特ニ教師ヲ各地ニ遣ハシ又自ラ各種ノ試驗所ニ就テ研鑽ヲ積ミ其習得シタル所ハ必ス之ヲ印刷シ無代價ニテ當業者ニ頒チ或ハ顯微鏡講習所ヲ設ケ或ハ各地ニ講話シテ當業者ノ啓發ニ努力シ殊ニ微粒子病ノ豫防ハ原種ヲ框製ニ改ムルニ如カサルノ說ヲ唱導シ率先之ヲ實行スルト共ニ刻苦多年濕熱消毒器ヲ按出シテ裨益ヲ營業者ニ與ヘ其他桑樹萎縮病ノ原因ヲ研究シ蠁蛆驅除霜害豫防等ニ焦心スル等孜々トシテ斯業ノ發達ニ盡瘁スルコト茲ニ三十有餘年洵ニ公衆ノ利益ヲ興シ成績顯著ナリトス依テ明治十四年十二月七日勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰セラル

○陸海軍

○韓國駐箚軍司令部移轉　韓國駐箚軍司令部ハ本月一日龍山ヘ移轉同二日ヨリ事務ヲ開始セリ（陸軍省）

○韓國駐箚軍人死亡者　韓國駐箚陸軍軍人ノ死亡者左ノ如シ（陸軍省）

去月十二日暴徒討伐中韓國平安南道寧遠郡中上里ニ於テ温倉江渡河ノ際增水ノタメ溺死

新潟縣西蒲原郡峰岡村百十番地平民
騎兵第十七聯隊
陸軍騎兵二等卒　內山　孝三

○不要徵兵終決處分者　所在不明ノ徵兵終決處分未濟者中死亡、徵兵處分濟、所在發見等ノタメ爾後調査ヲ要セサル者左ノ如シ（山梨縣）

本籍	氏名	生年月日（明治）
西山梨郡甲運村一九三	横　整	二三、九、一三
東山梨郡上萬力村二〇六	窪田　重太郎	二〇、六、二六
同松里村九八	古屋　福明	二六、九、二
同七里村四二五	長田　芳治	二六、三、一五
同日下部村三六	小林　袈裟造	二〇、九、二
西八代郡大塚村無番戶	立川　彦一	二六、七、一七
同九六	飯島　延藏	一八、一、一三
同落居村無番	望月　詮喬	一九、三、二八
北巨摩郡若神子村一九四	松川　住年	二〇、一、一八
同小泉村七二	田中　國次郎	一九、三、一
南都留郡福地村九二	小俣　忠治	一九、一、一三
東八代郡石和町二七七	久保川　寛一	一九、一、二五
同豐富村一七六	小澤　清	二〇、八、一八

○軍艦發著　各港灣ニ於ケル軍艦發著左ノ如シ

艦名	月日	著	發	行先
浦波	一〇、五	佐世保		
松江	同		松眞	橫須賀
白妙、松風	同			
野分、白雪	同		佐世保	
須磨	同	楠久		
朝日、八雲、春日、日進、三笠、富士、龍田、最上、吾妻	同	品川沖		
豐橋	同		吳	廣島灣
隅田	一〇、六		漢口	九江
有明、吹雪、曉、神風、初霜、如月	一〇、六		的矢	大島
響、韓崎	同		濱島	
朧、明石	同		玖波	
初春、初雪、春風、時雨	同		別府	吳
嚴島、姉川	同		吳	廣島灣
千代田	同		玖波	吳
相模	同	橫須賀		
宗谷	同		橫須賀	

佛國軍艦「ダントルカストー」ハ本月二日神戶ニ向ヒ長崎ヲ拔錨セリ（長崎縣）

（海軍省）

第7586号 本文

○學事

○入學許可　東京外國語學校ニ於テ今般專修科補闕入學ヲ許可セシ者ノ族籍、氏名左ノ如シ（文部省）

英語學科第一年級

長崎縣平民　江口　莊二郎　德島縣士族　中島　續一
東京府平民　多賀　義三郎　靜岡縣士族　宮田　俊一　山梨縣平民　篠原　鉻太郎
京都府士族　武井　茂

獨語學科第一年級

大阪府平民　平野　權之助

○孛國農業敎育概況　孛國農業敎育ノ概況ニ付キ文部省外國留學生盛岡高等農林學校敎授針塚長太郎ヨリ左ノ如ク報告アリ（文部省）

孛國農業敎育

孛漏生國內農業敎育機關

千九百五年ノ調査ニ係ル孛國ノ農業敎育機關ハ左ノ如シ

一、農科大學　五校
　林學專門學校（大學程度）　二校
　農業專門學校（大學程度）　三校　｝大學程度ノモノ十二校
　獸醫高等學校（大學程度）　二校
二、中等農學校　十六校
三、低度農業學校
　（イ）農業實踐學校（Ackerfanschülen）　二十一校
　（ロ）農業冬季學校（Landwirtschaftliche Winterschülen）　百三十八校
四、特種農業專門學校　三校
　內
　王立「ダーレム」（Dahlem）園藝專門學校
　王立「プロスカウ」（Proskau）果樹專門學校
　王立「ガイセンハイム」（Geisenheim）果樹、園藝及果酒釀造專門學校
五、特種中等農業學校　十四校
　此中ニハ園藝、果酒釀造、園丁養成、蔬菜栽培、種苗育成等ノ學校ヲ含ム
六、牧場學校（Wiesenbauschülen）　五校
七、牛乳學校（Molkereischülen）　十五校
八、農業家政學校（Landwirtschaftliche Haushaltungsschülen）　五十三校
九、巡回農業家政學校（Wanderhaushaltungsschülen）　十九校
十、蹄鐵工練習所（Hufbeschlag-Lehrschmuden）　五十八箇所
十一、養蜂學校（Imkerschulen）　二校
十二、製糖及釀造學校（程度中等以上）　三校
十三、王立林業技手養成學校（Königliche Forstlehrlingsschülen）　五校

卽チ大學ヨリ低度農業學校（補習學校ヲ除ク）ヲ合計シテ千九百五年ニ三百六十四校アリ農村補習學校ハ現在ニ於テ其數左ノ如シ

　農村補習學校（Ländliche Fortbildungsschulen）　二千十九校

農業講習會

一、農業高等講習會　七箇所　是ハ主トシテ農科大學、農業專門學校、農業會議所ノ主催ニ係リ場所ハ大學若クハ專門學校トス
二、科別講習
（一）農業簿記講習　十七箇所
（二）耕作及牧地講習　二十九箇所
（三）畜產講習　四十四箇所
（四）果樹、庭園、蔬菜、果實利用講習　九十箇所
（五）葡萄栽培及釀造講習　二十四箇所
（六）農家家政講習　三箇所
（七）其他酒精、牛乳、林業等ニ關スル講習　八箇所
（八）小學校敎員ニ對スル農業講習（農村補習學校敎員タルニ適セシムルヲ以テ目的トス）　六箇所
計　二百二十八箇所

卽チ十二箇ノ大學程度若クハ之ト匹敵スル專門學校、十六校ノ中等農業學校、百五十九校ノ低度農學校、百七十七校ノ特種農業學校、二千十九箇所ノ農村補習學校ト二百二十八箇所ノ農事講習會トハ現下孛國ノ農業敎育ヲ形成スルモノナリ左ニ聊カ是等學校ノ性質ニ關シテ簡單ニ說明ヲ施サントス

各種農業學校ノ性質

一、農科大學ハ勿論最高等ノ農業ニ關スル敎育ヲ施シ研究ヲ遂ケ實驗ヲ行フ所ニシテ「ギムナジウム」（Gymnasium）、「レアルギムナジウム」（Realgymnasium）、「オーバーレアルギムナジウム」（Oberrealshule）、ノ卒業生ヲ入學セシム但シ右卒業生ニアラサルモ充分ナル學術ヲ有シ特ニ入學試驗官ノ許可ヲ經タル者ハ入學スルコトヲ得

二、農業專門學校ノ目的ハ第一、農業ニ關スル學術上ノ研究ヲ遂ケ兼テ農業專門學科ニ對スル基礎學科及補助學科ヲ授クルヲ以テ目的トシ第二、農業者ニ學術的研究ニ依リテ其農業ヲ合理的ニ且ツ有利ニ經營セシムルヲ目的トシ第三、測量技術者タラントスル者ニ相當ノ敎育ヲ施シ第四、大學、高等工業學校若クハ高等獸醫學校ノ學生ニシテ農業ニ趣味ヲ有スル者ニ聽講ノ便ヲ與フルヲ目的トス之カ入學資格ハ（伯林高等農學校ヲ例示ス）

正科生
（一）農業生徒ハ少クトモ一年志願兵タルノ資格ヲ有スルヲ要ス
（二）將來中等農學校ノ敎職ニ從事セントスル學生ハ「ギムナジウム」、「レアルギムナジウム」、「オーバーレアルシューレ」等ノ中何レカノ卒業證書ト二箇年間農業實地ニ從事シタル證明書トヲ入學願書ニ添付スルヲ要ス
（三）測量及土木科入學ニ對シテハ七學年修了ノ中等學校卒業ニ相當スル學力ヲ有スル者卽チ「ギムナジウム」、「レアルギムナジウム」等ノ第一級ニ進級シ得ル學力ヲ有スル者タルヲ要ス同時ニ入學前ノ實習ノ力ハ孛國ノ測量技術者試驗ヲ經テ一年以上實地ニ從事シタル證明ヲ要ス

聽講生
規定ノ學力證明書ヲ有セサル者ト雖モ其希望學科ニ對シテ聽講生タルニ適當ト認ムルトキハ特ニ許可スルモノトス

別科生ハ左ニ該當スルヲ要ス
（イ）已ニ他ノ中等學校ヲ卒業シタル者若クハ非農業者ニシテ一二ノ學科ヲ修メタキ希望ヲ有スル者
（ロ）農業者ニシテ正科生又ハ聽講生トシテ修學スルコト能ハサル充分ノ證明ヲ爲シ得ル者

三、林學專門學校ハ林業ニ關スル高等ノ學術竝ニ必要ナル副學科ヲ授クルヲ目的トシ特ニ國家ノ林務官ニ充分ナル學理及實地敎育ヲ施シ林學ノ進捗ヲ圖ルヲ期ス
入學資格ハ「エベルスワルデ」林業學校ヲ例示ス
（一）「ギムナジウム」「レアルギムナジウム」若クハ「オーバーレアルシューレ」ノ卒業證書ヲ有シ特ニ數學ノ力ニ秀テタル者
（二）一年以上林業實地ニ從事シタル者
（三）品行ノ特ニ方正ナル者
（四）在學中學資ニ不足ヲ感セサル者
學年ハ二箇年間林業專門學校一箇年間大學ニ於テ修業合計三箇年

四、獸醫高等學校ハ畜類ノ治療ニ關スル全般ノ學術竝ニ之カ基礎學科ヲ敎授シ研究スルヲ目的トス
學年ハ伯林獸醫學校ハ三箇年半卽チ七學期ナリ
入學ノ資格ハ大學ト均シ
但シ外國人ニシテ卒業後獨逸帝國內ニ開業スル目的ヲ有セサル者竝ニ別科生ハ學力稍々低キモ入學ヲ許可ス
陸軍獸醫學校ノ生徒ハ其筋ヨリ本校校長ニ特ニ交涉シタル場合ニ入學ヲ許可ス
尙ホ大學高等農學校高等工業學校國立美術學校ノ學生ニハ聽講シ實習スルコトヲ許ス
獸醫ニシテ引續キ本校ニ於テ研究セントスル者ニモ在學ヲ許可ス

（一四）

五、中等農學校ハ國庫ノ補助ヲ受クル公學校ニシテ中等農家ノ子弟ニ將來實業ニ從事スルニ必要ナル充分ノ敎育ヲ施ス所ニシテ兼テ一年志願兵タルノ特權ヲ得シメ校內ニ於テハ成ルヘク農業ノ學理ヲ完全ニ敎授スルヲ目的トス千八百九十五年五月八日ノ勅令ヲ以テ卒業生ハ判任文官ノ資格ヲ享クルコト、爲レリ

修業年限ハ六箇年ニシテ三箇年ハ豫備科、三箇年ハ本科トス豫備科入學ノ資格ハ「レアルシューレ」ノ下級三學年ヲ了リタル者ニ相當ス

學科目ハ獨逸語、歷史、地理、宗敎、農業、物理、化學、數學、動物、植物、圖畫、體操ニシテ尙ホ佛蘭西語ハ必習科目ナリ此必習科目ハ第五學年ヨリ始ム第四學年以上ニ對シテ拉丁語ヲ隨意科目トシテ課ス體操ト關聯シテ地方ノ消防制度ヲ隨意科目トシテ課シ消防實習ニ要スル設備ハ州立消防組合ノ負擔トス

獨逸政府ハ今ヤ最モ熱心ニ中等農民ノ位置ヲ鞏固ニシ貴族ノ大農地ヲ分割シテ中流ノ農家ヲ愈々益々增加センコトニ努メ此階級ニ充分ナル農業敎育ヲ施シテ以テ經濟事情ヲ豐ニシ農界ノ基礎ヲ安定セシメント焦慮シツヽアリ此目的ニ對シテ最モ必要ト思ハルヽハ中等農學校ナリ然ルニ孛國ヲ通シテ其校數僅ニ十六校ニ過キス之カ原因如何

各方面ヨリ得タル材料ト見聞トヲ綜合シテ略々左ノ斷定ヲ下スコトヲ得ヘシ

（一）事實ニ於テ中等農學校ニ入學スル者ハ獨逸ニ於テハ主トシテ大地主ノ子弟ナリ大地主ハ國內其數比較的多カラス故ニ多數ノ學校ヲ要セサルコト
（二）學科目ノ配置稍々普通一般ニ偏シ卒業後專ラ農業ニ從事セントスル者ノ希望ニ副ハス彼等實際家ハ好テ農業實踐學校ノ方面ニ赴クニ依ルコト
（三）子弟ニ中等以上ノ敎育ヲ授ケントスル父兄竝ニ中等以上ノ敎育ヲ受ケントスル子弟ハ進歩ニ制限アル中等農學校ニ入學セシメ若クハ入學スルヲ好マスシテ多ク「ギムナジウム」又ハ「レアルギムナジウム」ニ向フコト
（四）中等農學校ヲ卒業シテ一年志願兵ト爲リ追テ陸軍豫備士官ト爲リタル後ハ社交ニ耽リ又農事ヲ顧ミサルカ如キ弊アルヲ以テ農業會議所（勿論例外アリ）又ハ中央農會ノ如キ團體機關ノ幹部ノ者之カ奬勵ニ熱心ナラサルコト
（五）中等農學校ニ於テ實習ヲ課セス專ラ學理ヲノミ課スルヲ以テ生徒ニ農業ノ趣味生セサルコト

日本ノ中等農學校卽チ甲種農業學校カ此弊ニ陷ラサルハ大ニ幸福トスル所ナリ

六、農業實踐學校ハ低度ノ農業學校ニ屬シ小學校卒業ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシム本校ノ目的ハ農業ニ關スル學理竝ニ學理的實地ヲ授ケ眞面目ニ農業ニ從事セントスル者、一年志願兵ノ希望ヲ有セサル者、已ニ他ノ農業學校以外ノ學校ヲ卒業シテ將來農業ニ從事セントスル者等ニ今日ノ事情ニ最モ適セル農業經營ニ關スル知識ヲ極テ適切ニ且ツ合理的ニ敎授セントスルニ在リ而シテ修學期間ハ一箇年半若クハ二箇年ニ亙ルヲ通常トス

入學生徒ノ年齡ノ制限ハ學校ニ依リテ異ナレトモ滿十四歲ヨリ滿三十歲マテノ間ヲ昇降ス卽チ或ハ十七歲以上ト制限セルアリ或ハ十六歲ヨリ二十四歲マテト限リ或ハ十四歲ヨリ三十歲マテト規定セルカ如シ

設立者ハ州縣郡等ノ農會立又ハ郡立農業會議所立若クハ個人ノ設立ニ係リ輓近ニ至リテ大部分ハ農業會議所立ニ變更セラルヽ傾向アリ

此種ノ學校ノ成績ハ今日マテノ經驗ニ依レハ良好ト認メラレ今後續々各地ニ設立セラルヽ氣運ヲ有ス補助ノ如キモ國州郡若クハ農業會議所等ヨリ交付セラル

設立地ノ現狀ニ依リテ見ルニ是等ノ學校ハ成ルヘク高等農業專門學校、農事試驗場其他ノ既設ノ農學校內ニ併設スルカ方針ヲ採レルモノト認メラル以テ充分ナル實習上竝ニ學理上ノ設備ヲ利用シ同時ニ優良ナル敎職ヲ利用スル道ヲ講スルカ如シ

此種ノ學校ハ勿論低度ノモノニ屬スト雖モ年長生徒ヲ完全ナル設備ノ下ニ收容シ有力ナル敎授ノ指導ノ下ニ一箇年半若クハ二箇年間修業セシムルヲ以テ實力ニ於テハ時ニ或ハ吾國ノ甲種農業學校ノ卒業生ニ匹敵シ若クハ間々優ルモノナキヲ保セス完全ナル設備ト有力ナル敎職トノ利用ニ關シテハ最モ稽考ノ價値アルモノト認メラル

七、農業冬季學校ハ小學校又ハ補習學校修了者ニ更ニ進ミタル敎育ヲ施ス所ニシテ主タル目的ハ夏季半箇年間ハ自家ノ農業ニ從事スルタメニ修學ノ暇ヲ有セサル子弟又ハ家計ノ事情ニ依リ二箇年引續キテ農業實踐學校ニ修學シ得サル農家ノ子弟ニ農業ノ實際ニ必要ナル知識ヲ授ケ將來有益ニ農業ヲ經營セシムルニ肝要ナル敎育ヲ施シ兼テ善良ノ村民ヲ養成スルニ在リ

入學ノ條件ハ小學校卒業以上ニシテ年齡十五歲以上タルコトヲ要ス

一冬季六箇月ニシテ二冬季修了ヲ常例トス敎員ノ配合校舍ノ選定等多種多樣ナレトモ主幹ノ敎員ハ郡ノ巡回敎師之ニ當ルヲ通常トス左ニ「ケーニヒスベルヒ」縣「ウェーラウ」郡ノ農業冬季學校ヲ例示ス

設立者　東孛漏生州中央農會
校長　「エコノミエーラート」「クール」
開校　千八百七十九年九月
月謝　一冬季三十馬
修學期間　二冬期（夏季ハ家庭ノ農業ニ從事シ若クハ他ノ農場ニ於テ實習ニ從フヘキモノトス）
入學期　九月初旬
入學資格　年齡十五年以上小學卒業ノ學力ヲ充分ニ有スル者
敎師　校長「クール」ハ「エコノミエーラート」ニシテ且ツ農業巡回敎師ナリ他ニ農業巡回敎師一人、獸醫一人、林業技師一人、小學校校長一人、小學敎員二人、園藝技手一人、果樹栽培巡回敎師一人卽チ合計九人
實習地　試驗場園藝地ヲ有ス
經費
　月謝ノ外ニ農業巡回敎師費用トシテ國庫補助　七、二〇〇馬
　州ノ補助　一、四五〇
　州消防組合ヨリ補助　一〇〇
　學校所在地ウェーラウ町ヨリ校舍ヲ無料ニテ貸與ス
　商議員組織ヲ有ス　ウェーラウ郡長之カ議長タリ

爾餘ノ冬季學校モ其組織ハ大同小異ナリ

設立者ニハ郡立アリ私立アリ農會立アリ中央農會立アリ農業會議所立アリ一樣ナラサレトモ多クハ中央農會ト農業會議所立トニ屬シ輓近漸次農業會議所立ニ變更セラルヽ傾向ヲ示ス

農業冬季學校ハ獨國ニ於テ今日最モ有效ト認メラレ一般ニ農業界ヨリ歡迎セラレ之カ校數モ已ニ約百四十校ニ達シテ今後益々發達ノ勢ヲ有ス蓋シ郡農業巡回敎師ハ冬季ニ於テ閑暇ヲ有シ農民亦多忙ナラサルヲ以テ各々其閑暇ヲ利用スルノ便アルト敎授方法亦農業者ノ實狀ニ適合スルニ依ルナルヘシ因ニ曰フ郡農業巡回敎師ハ悉ク大學卒業以上ニシテ國ノ試驗ニ及第シ學術經驗共ニ遺憾ナキモノナリ

顧テ日本ノ現狀ヲ見ルニ縣郡町村系統的ニ農會組織セラレ各種ノ經濟上ノ產業組合設立セラレ農事試驗場農業巡回敎師等ノ機關到ル所之ヲ見サルナシ是等諸機關ト農業敎育各機關トノ關係ハ唇齒輔車今後益々密接ナラシムルノ要アルモノト認メラル

日本ノ現狀ニ照シ大ニ設立ノ必要アルニアラサルカ

八、特種農業學校ハ各々特別ノ目的ヲ有シ設立セラレタルモノナルヲ以テ槪括的ニ說明ヲ施ス能ハス漸ク詳說ヲ省クト雖モ其名稱ニ依リテ直ニ其性質ヲ知ルコトヲ得ヘク特ニ國立園藝學校ノ如キハ

特種農業學校中農業家政學校ハ獨逸帝國內到ル所歡迎セラレ之カ設立相繼キ已ニ千九百五年ノ材料ニ依ルモ五十三校ニ達シ今日ハ或ハ已ニ七十餘校ニモ達セシナラント想像セラル此種ノ學校ニ二種アリ一ヲ農業家政學校（Land wits chaft liche Hans haltungs Schule）ト謂ヒ他ヲ主婦養成學校（Wirtschaft Liche Frauen Schule）ト謂フ前者ノ目的ハ農家ノ女子ニ家政ニ必要ナル敎育ヲ施スニ在リ故ニ將來農家ノ主婦トシテ行フヘキ業務ノ各方面ニ對スル學理的竝ニ實地的敎育ヲ授クルコトヲ期ス（後段撒遜農業敎育參照）

後者ハ農村ノ中流以上ノ成年女子ニ對シ中流以上ノ農家ノ主婦若クハ其代理者、農業女子家政學校ノ敎師、園藝家、女子農業經營者、移住希望者等ニ對シ必要ナル敎育ヲ施スヲ目的トス入學ノ年齡ハ十四歲ヨリ四十歲前後ノ間ニ於テ各學校ニ於テ適宜之ヲ定ム入學ノ際ニ於ケル學力ハ前者ハ小學校卒業ヲ程度トシ後者ハ高等女學校修了ヲ程度トス修學年限ハ兩者共短キハ一箇年永キハ二箇

（一五）

第7586号　本文

第7586号　本文

第 7586 号　本文

本文

第 7586 号

○香港傳染病病況　香港ニ於ケル傳染病病況ニ付キ同地駐在副領事船津辰一郎ヨリ去月二十二日附ヲ以テ左ノ如ク報告アリ

九月十三日ヨリ同十九日ニ至ル一週間當地傳染病ハ「ペスト」新患者及死亡者共皆無ニシテ虎列剌新患者及死亡者各々三人ナリ今本年初發以來ノ累計ヲ示セハ左ノ如シ

	患者	死亡者
「ペスト」	一〇八七	九〇七
虎列剌	五六	四七

○觀象

○全國氣象

十月二日

氣壓　平均八時　午前六時　午後二時　午後九時　温度　平均　最高　最低　風向　風速　雨量　天氣　午前八時ヨリ翌日午前八時マテ

（各地の観測値）

十月三日

氣壓　温度　風向　風速　雨量　天氣

（各地の観測値）

○天氣概況　高氣壓ハ揚子江域ヨリ黄海及東海ニ亙リテ存在シ氣壓七百四十九粍以下ニ降レリ北海道及東北地方ハ曇天ナレトモ其他ノ地方ハ天氣暗期ニシテ氣溫著シク降リ平年ヨリ二三度低シ

氣壓　臺灣南方海上ノ低氣壓ハ其後著シク進行ヲ爲サス依然トシテ潮留ノ儘ヲ爲シ中心ノ氣壓七百五十五粍以下ヲ示セリ又北海ニハ新低氣壓ノ發生セルモノアリ而シテ高氣壓ハ本邦中部ニ獵遠シ信州高原ニテハ氣壓七百七十粍以上ニレリ

内海東部及本邦中部ニテハ曇天ノ處多ケレトモ其他ノ地方ニテハ天氣概シテ晴期ナリ

氣溫　九州西部ヲ除ケハ概シテ下降シ平年ヨリ低度ヲ示セリ

○全國天氣豫報

自十月六日午後六時
至十月七日午後六時

第一區　北ノ風、概ネ晴
第二區　南又ハ西ノ風、概ネ曇少雨後晴
第三區　第二區ニ同シ
第四區　南ノ風、概ネ曇但シ雨模樣アリ
第五區　北又ハ東ノ風、概ネ晴後曇天ト爲リ雨模樣アリ
第六區　第五區ニ同シ
第七區　南又ハ東ノ風、概ネ晴後曇天ト爲リ雨模樣アリ
第八區　第五區ニ同シ
第九區　北又ハ東ノ風、概ネ晴後曇
第十區　第九區ニ同シ

○東京地方天氣豫報

北ノ風晴後曇

○東京氣象

十月五日

氣壓（海面ノ度）　平均　七六二・九粍

温度　平均　一八・八度
（平年ヨリ一・八度高シ）
最高　二二・八度
最低　一六・七度

温度　平均　七七・三％

水蒸氣張力　平均　一二・四粍

雲量　平均　九・四

照時間　三・四時

風　平均速度　三・九米
最大速度　六・七米
最多方向　北東

水發　降　蒸發　記事

總量　〇・三粍
一時間最大量　〇・二粍

未明結露午前五時十分ヨリ同六時四十分マテ霰雨霙織又午前十一時二分及午後八時五十八分ニ霰雨降リ直ニ歇ム

雹（震度弱キ方）　時刻正カラス
雹（震度弱キ方）　性質緩

（以上中央氣象臺）

○地震　青森龍飛ノ地震報告左ノ如シ

青森龍飛同　十月六日　午前二時二十四分三十五秒
午前二時三十一分十秒

○土地收用公告

去月二十五日官報ヲ以テ公告セシ收用土地細目中「飯塚中道上」トアルハ「飯塚中道上」ノ誤ニ付キ訂正ス

明治四十一年十月七日　栃木縣知事　中山已代藏

明治四十一年九月十九日内閣ノ認定公告ニ係ル北都留郡大原村起業學校擴張ノ爲メ使用スヘキ土地ノ細目左ノ如シ

明治四十一年十月七日　山梨縣知事　熊谷喜一郎

北都留郡大原村大字猿橋字大西二〇九、二一三、二一四、二一五田

○廣告

○判事檢事登用第一回筆記試驗

木月八日ヨリ同十三日マテ（十一日ヲ除ク）司法省ニ於テ判事檢事登用第一回筆記試驗ヲ施行スヘキニ付キ左記人名ノ者ハ左ノ事項ヲ知ノ上試驗中ハ毎日午前八時マテニ出頭スヘシ但シ右時刻マテニ出頭セサルトキハ試驗場ニ入ルコトヲ許サス

一洋服又ハ羽織袴ヲ着用スヘシ

一筆墨硯盤、錐三個必ス携帶スヘシ（硯携帶ヲ許サス）

一試驗場ニハ用紙其他一切携帶スルコトヲ得ス

一試驗ノ初日ニハ通知書ヲ試驗場受付係ニ差出シ第二日以後ハ受付係ヨリ交付スル用紙ニ自署シタル名刺ヲ同係ニ差出シ著席番號紙ト引替ヲ請フヘシ但シ名刺用紙ハ日々翌日分ヲ交付スヘシ

明治四十一年十月

判事檢事登用第一回試驗委員長　長谷川喬

穐田信市　高田吉藏　田中次郎　竹内常治郎　竹入幾益男　田中嘉平　田川政一　瀧田四郎　高林隱二　高橋八郎　多田之助　田知本郎

[illegible]

佐竹孝　佐々木水省三　齋藤竹松　佐々木多吉　佐々木與三郎　澤田常二　廸田彌四郎　木田州又　木村重寛　木村虎治　木村英四郎　北村勝　木下尚一　樋川順三　北村採市　菊池政敬　喜多村譽司　木村開藏　北浦大介　菊地正夫　岸本正三　木原源助　菊池金郎　木村達峻

北村牛五郎　淸松林太郎　湯槇信陸　行宗菊次郎　三藤久也　宮澤林浦太　三好之助　三隅林正　宮崎伊佐人　宮口伊佐賢　御薗生淳　宮田利太郎　宮河鳶衛　三野馬吉　三澤賴次　宮坂武七　宮本誠一　宮浦遜雄　三原房吉　宮地德太郎　宮澤貞穎　永澤重次郎　三宅治三郎　三俣貞作　水野濟三郎

三島藤太　三輪和佐吉　宮本利吉　水田謙一　三澤三代助　宮崎藤太　宮本忠平　三井歸一　宮脇琴治郎　宮本幸治　淸水高之助　椎名久太郎　設樂一男　下道義次　鹽垣長二　下條男郎　七崎房太郎　篠野三行平　城本有音　島水政七郎　淸水芳太郎　諏花治　篠崎寬烈　島崎岩太郎　廣

淸水正一　庄司參次郎　鹽見覺連　芝崎直二　鹽澤榮重　下里市　白尾宏　鹽見鐙吉　淸水二郎　島崎駿吉　鹽田修吾　遊澤昇三　淸水溜郎　白井三之吉　進藤兵橋　平川兵八　平田親勵　平尾籌平　平山志太郎　平賀勝一　平賀壽夫　平林喜代藏　廣田卓爾　平井梅吉　平田三澤

樋口恒三郎　平田健助　平山猪之次郎　肥後英繁　森昌　守田半次郎　毛利彭　森田七吉　森田槺次郎　望月七亨　守谷富之助　森利雄八　森源留　森美一　森田重一　森寺宗査　森田善太郎　瀨尾俊太郎　關昆弓之助　關上善治　御訪善弘　鈴木次郎　杉本善　末廣清吉

鈴木小平　鈴木孝太郎　鈴山騤一三　菅木貞賢　鈴木正芳　杉原幸作　菅野義繼　諏訪敏入　鈴木三男　須藤淸磐　鈴木太鶴吾　菅原金郎　鈴俣眞一助　菅木久司　鈴木正郎　鈴木新吉　須澤幸之助　鈴木重三郎

稻上岩佐　武兵衛　生野哥藏　飯泉忠八郎　今津巖次郎　生末耕一　板花角一　伊津野虎輝　石井直作　入江半吉　石井市次　岩田作之助　伊東五十平　今谷嘉久朗　岩城次太郎　伊東卯太郎　伊勢勝藏　井上治三郎

岩倉芳種　五十嵐小助　池田好實　岩瀨健三郎　蒔田苗代　一ノ瀨平治　家入經晴　伊藤源三郎　池尻竹次郎　伊村宗吉　馬場勝　服部滿壽雄　馬場正重郎　濱部二郎　塙政雄　西村孝三　西村勘之助　西山保正

西村庄三郎　堀政之助　堀内政貞吉　本鄕利市　堀田總太郎　堀口眞資　兵藤品吉　德永齋　德永親一　豐福正一　千川源之丞　大久保彌三郎　大出喜三郎　荻野義一　尾關元治　大石齋一　大沼德太郎　小倉

大野彌一郎　大笹守節　岡五一郎　大隈貴祐　岡部格治　大野正弘　尾山万次郎　大繩勝治　大槻錦次　尾形雄司　岡里次郎　岡部國太郎　男庭藏　岡島範之助　尾埜好三　勝田堯任　渡部仲治　綿貫正夫

渡川成文　渡邊文三　金山已七　神澤定喜　金内三一郎　片原理三郎　河西淸次郎　河井長重郎　海輪常次郎　梶山利吉　片岡芳一介　上谷誠一　神戸正和　柿本瑞吉　笠原百左衛門　川口準一郎　上遠野一浩　笠原照吉

加藤新平　河鰭義三郎　河野通明　門田義紀　吉本鶴次　横田知英　吉田俊親　横山幸次郎　高橋勝三郎　田島佐太郎　高木壽　多賀淸　帶刀吉五郎　太宰勝親　高久芳三郎　竹内長治郎　竹内角左衛門　田中恒次郎

○辯護士筆記試驗

本月八日ヨリ同十三日マテ（十一日ヲ除ク）司法省ニ於テ辯護士筆記試驗ヲ施行スヘキニ付キ左記八名ノ者ハ左ノ事項了知ノ上試驗中ハ毎日午前八時マテニ出頭スヘシ但シ右時刻マテニ出頭セサルトキハ試驗場ニ入ルコトヲ許サス

一　洋服又ハ羽織袴ヲ著用スヘシ

一　筆、墨壺、錐ニ限リ必ス携帶スヘシ（硯携帶ヲ許サス）

一　試驗場ニハ用紙書籍及筆記モノヽ類ハ一切携帶スルコトヲ得ス

一　試驗ノ初日ニハ通知書ヲ試驗場受付係ニ差出シ第二日以後ハ受付係ヨリ交付スル用紙ニ自署シタル名刺ヲ同係ニ差出シ著席番號紙ト引替ヲ請フヘシ但シ名刺用紙ハ日々翌日分ヲ交付スヘシ

明治四十一年十月

辯護士試驗委員長　長谷川喬

竹定幸吉　高橋榮藏　高橋增基　田中政市　田中重藏　立山官平　田中大英　谷井辰藏　高木靜　田中直三郎　染谷德平　土田莊太郎　角田新藏　坪山彥四郎　土野蓑之助　土谷晉　辻岡尙　辻本作太郎　土橋岩雄　中神喜一　永井與市郎　中村友武　成田久米松　中島榮一郎　中江吉藏　長津久三郎　内藤保治　中村滿　中島宇吉　中山新太郎　中山彌　滑川八十吉　中澤八助　永井木六

中土政之助　中島駒吉　中村甚右衛門　中西德雄　中島源吉　中野兵之助　上村進　内野義太郎　梅村榮二郎　魚住博章　漆原勉三　打田傳吉　内田文吉　牛島麟　漆原勇　内倉房市　氏家貞彥　野木與三郎　野村與三太郎　野崎武吉　野村列樹　野田哲郎　野口和一郎　日下新　楠元芳熊　忽那一郎　久保田金四郎　久野鍾七郎　栗田竹治郎　倉信義輝　釘宮極　熊谷精　熊木悅三　久保寅之助

山口全男　矢田堀兵二　山下悅一　山崎耕司　山本源太郎　山下平吉　山本舒　山本重彥　山下藤吉　山本二郎　山川瑛次　山崎文太郎　柳澤寬三　山本俊雄　山元政彥　山本卯彥　山根品吉　山本一淸　山本幾八　山崎吉太郎　山口晉雄　矢田英敏　山來晉　安田正夫　松澤卓規　益本千家　間宮雄一　町田助重　增子儀助　萬羽彌一郎　松浦繁孝　松木繁吉　眞榮城守康　前原浩藏

古川達雄　古川豐藏　藤原豐　藤井國見　福岡伯　双川喜一　船橋廣吉　福澤義太郎　藤川兵五郎　藤木中二　福井正太郎　小林喜一　小浦義一　小山壽幸　小沼慶悟　小林善作　小林榮太郎　後藤春造　湖松茂吉　小山晉　遠藤直一郎　寺井俊夫　寺岡佐市　寺田正身　結川盛貞　有坂茂三郎　朝倉克雄　朝子熊喜　荒川熊記　東晴海　淺見八郎　新井誠三　阿部太助　靑木泰助

新井八郎　淺野庄治郎　赤沼眞次郎　阿部虎之助　安藤四朗　秋野精郎　天納哲雄　崎元武兵衛　齋藤巖　佐々木幸一　澤田橘左衛門　坂本秀泰　佐々木勝規　阪上綱吉　笹瀨豐　佐原竹次郎　齋藤續　澤田宏　佐藤弘　佐藤仙造　坂田匡汜　佐藤波太郎　猿野予之吉　三戸重太郎　北島圓次郎　桐野常太郎　木村兼孝　木原快藏　木村勝　岸節造　木付克吉　湯谷謙澄　湯村安次郎　三浦誠

水之江晉　水城彌市　宮武榮治良　湊力藏　三好千三　峰川辰五郎　三好九十九　島津二郎　重永義榮　島崎達馬　下田直亮　島崎良治　平非綾夫　平井淸　久永麟一　引地寅治郎　人見喜平治　日笠富惠　廣島重太郎　平山孝　森保助三郎　森田政義　望月松太郎　森田彌吉　關口鐵之助　關口覺一　關口茂十郎　須賀泰雄　須藤吉馬　鈴木常吉　杉ノ原英太郎　杉田百助

三　入學願書及履歷書書式左ノ如シ

入學願書

私儀幼稚園保姆志望ニ付御檢定ノ上御校保育實習科生トシテ入學御許可被成下度此段相願候也

原籍　族籍（寄留者ハ寄留地ヲ併記スヘシ）

戶主何某　妹弟女等（本人戶主ニアラサレハ）

年　月　日　本人　何　某　印

東京女子高等師範學校長高嶺秀夫殿

履歷書

原籍　族籍（寄留者ハ寄留地ヲ併記スヘシ）

戶主何某　妹弟女等（本人戶主ニアラサレハ）

生所何々

何　某

生年月日

一　卒業證書免許狀

何年何月何日官、道、廳、府縣、市、町、村、（私）立何學校ニ於テ何學科卒業證書ヲ受ク（證書寫ヲ添フヘシ）

何年何月何日何所ニ於テ何免許狀ヲ受ク（免許狀寫ヲ添フヘシ）

一　學業

何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何所何某ニ就キ何學科ヲ修業ス何年何月何日官、道、廳、府、縣、市、町、村、（私）立何學校ニ入リ何學科ヲ修業シ何年何月何日卒業或ハ何々ニ付半途退學シ或ハ現ニ何箇年ノ課程ヲ卒フ

一　職業

何年何月何日何北海道廳府縣郡市町村ニ於テ訓導拜命何國何郡市區何學校ニ在勤何年何月何日依願免官或ハ現今在勤等

一　賞罰

何年何月何日何所ニ於テ何々ニ付何賞ヲ受ケ或ハ何罰ヲ受ク等

右之通相違無之候也

年　月　日

右　何　某　印

四　入學志望者ハ前入學願書履歷書ノ外ニ本月一日以後ノ證明ニ係ル戶籍謄本ヲ添ヘテ差出スヘシ

五　道廳府縣立師範學校卒業生ニシテ服務年限中ニ在ル者及現ニ職務ヲ奉スル者ハ其所屬長官ノ許可書ヲ得テ之ヲ添フヘシ

六　入學試驗ハ當校ニ於テ施行ス志望者ニ對シテハ別ニ通知ヲ發セサルニ付キ本年十二月六日午前十時出校受驗票其他ノ書類ヲ受取ルヘシ

七　入學願書ハ自身出校スルカ然ラサレハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

○生徒募集

明治四十二年一月入學セシムヘキ私費保育實習科生徒八人ヲ募集ス入學志望者ハ來ル十一月三十日マテニ當校到達ノ日取ヲ以テ願書ヲ差出スヘシ

明治四十一年十月

東京女子高等師範學校

一　入學志望者資格

一　品行方正身體健全ニシテ保姆タルニ適當ナリト認ムル者

二　女子師範學校師範學校女子部修業年限四箇年ノ官公立高等女學校卒業生及之ト同等ノ學力ヲ有スル者

二　入學試驗科目及試驗期日

國語（解釋）	本年十二月七日午前九時ヨリ	同（樂器）	同
同（作文）	同	體格	同
圖畫（略畫）	同　午後一時ヨリ	試問（口頭）	同
音樂（單音唱歌）	同　八日午前九時ヨリ		

○藥劑師試驗日割

大阪及東京ニ於テ施行ノ本年第二回藥劑師實地試驗日割及試驗施行ノ場所左ノ通定ム受驗人ハ當日午前八時三十分マテニ左記試驗場ニ出頭スヘシ（氏名ノ上ニ×印ヲ附シタルモノハ本回學說試驗ニ合格シタル者ナリ）

明治四十一年十月

藥劑師試驗委員長　足立寬

大阪市北區常安町大阪府立高等醫學校內ニ於テ試驗施行ノ分

十月二十三日、二十四日、二十五日受驗人

岡山縣平民　武用留治
岡山縣平民　三澤靜夫
廣島縣平民　山田魏
岡山縣平民　太田隆見
三重縣平民　北村貫吉
廣島縣平民　岡本米次
滋賀縣平民　橋本つね
兵庫縣平民　本田みつ
大分縣平民　西島ミサヲ
靜岡縣平民　山本憲太郎
大阪府平民　泉尾政太郎
兵庫縣平民　勝原一二
鹿兒島縣平民　平川太平
愛媛縣士族　石橋虎吉
鳥取縣平民　岩宮末吉

和歌山縣平民　田村雄三
德島縣平民　北田喜一郎
香川縣平民　新居勘兵衛
大阪府平民　丸尾謙五
鹿兒島縣平民　林豐造
熊本縣士族　松本屯
三重縣平民　眞弓孝一
熊本縣平民　高濱瀨吉
鳥取縣平民　生田鶴藏
奈良縣平民　大西安次郎
富山縣平民　南つゞい
滋賀縣平民　觀音寺せつ
岐阜縣平民　森泰一
鹿兒島縣平民　中山光二
鹿兒島縣平民　原田直太郎

宮崎縣平民　太田久太郎
鹿兒島縣平民　川添十吉
岩手縣平民　千葉長三
島根縣平民　新田大
廣島縣平民　堀內理一郎
佐賀縣平民　谷口定
佐賀縣士族　高宮太朗
佐賀縣平民　小池七藏
佐賀縣平民　小笠原八太郎
佐賀縣平民　吉松德次郎
宮崎縣士族　宮田高知
福岡縣平民　戶田彥兵衛
熊本縣平民　吉丸末吉

十月　十六日受験人

佐賀縣平民　金一
愛知縣平民　渡邊三郎
愛知縣平民　山中秀次
岐阜縣平民　村瀬
愛知縣平民　岩月
愛知縣平民　軟織
廣島縣平民　坪田
京都府平民　大野
愛知縣平民　安田
京都府平民　純夫
千葉縣平民　五六
大阪府平民　文顯
山口縣平民　勇吉
兵庫縣平民　繩三
東京市小石川區雜司ヶ谷町百二十番地
測量術師試驗委員ニ於テ試驗施行ノ分

十月　十七日受験人

東京府平民　市造
東京府平民　鶴吉
廣島縣平民　澄
東京府平民　久保
長野縣平民　義太郎
東京府平民　直一郎

十月　十八日受験人

愛知縣平民　清吉
福島縣平民　眞治
長野縣平民　高光
佐賀縣平民　源次
石川縣平民　劉漢
三重縣平民　善測
栃木縣平民　六郎
愛知縣平民　勝
靜岡縣平民　口

○貯金通帳亡失及盜難等

左記貯金通帳亡失及盜難等ノ事故ニ關リタルニ付キ若シ其所在ヲ發見シタル者ハ速ニ最寄郵便貯金取扱局所ニ届出ツヘシ

明治四十一年十月

預入名義人　交付局所名

記番號

ほろに　二七六　和泉　颯
ほいす　二〇九一　掘津　大阪平野町
ほいいな　五五〇　河内　金山
ゐろず　五八六　和泉　堺柳ノ町
ゐいを　二四〇　摂津　大阪瓦町
思ぬ　三〇四八　郵便爲替貯金管理所　西村
ぬゐぬ　五七六　摂津　兵庫　林
かぬ　六九五九　加賀　大聖寺　東野
ちろて　二二二　山城　京都一條大神村　宮
ほろに　二七六　和泉　颯
ほいす　二〇九一　掘津　大阪平野町
ほいいな　五五〇　河内　金山
ゐろず　五八六　和泉　堺柳ノ町
ゐいを　二四〇　摂津　大阪瓦町
思ぬ　三〇四八　郵便爲替貯金管理所　西村
ぬゐぬ　五七六　摂津　兵庫　林
かぬ　六九五九　加賀　大聖寺　東野
ちろて　二二二　山城　京都一條大神村　宮

○郵便貯金通帳提出及預入金處分催告

左記郵便貯金預ケ入ハ本公告後一箇年内ニ其所持ニ係ル郵便貯金通帳ヲ提出スルカ又ハ預入金ノ處分ヲ爲スヘシ若シ其手續ヲ履行セサルトキハ郵便貯金及保管ニ係ル國債證券ハ郵便貯金法第二十條ニ依リ國庫ノ所有ニ歸スヘシ此段公告ス

明治四十一年十月

預入名義人

記番號

よに　九〇四　近江　八幡　高木
まはに　九九三　同　島田中　堀尾
やはぬ　二五〇　備前　竹代
むにわ　六〇一　登　小西
ゐのお　二九九　備中　玉
くやま　二〇六　同　増田
けふも　二〇六　備前　香
こえて　二二六　土佐　高知本町筋　藤崎
つけを　一九〇　伊豫　松山古町　村上
にゆさ　一九二　紀伊　名草　山高
いるは　二〇七　紀伊　海士　山田
つはぬ　三九二　阿波　中　村
かろに　一四四　同　入善　永田
よに　九〇四　近江　八幡　高木
まはに　九九三　同　島田中　堀尾
やはぬ　二五〇　備前　竹代
むにわ　六〇一　登　小西
ゐのお　二九九　備中　玉
くやま　二〇六　同　増田
けふも　二〇六　備前　香
こえて　二二六　土佐　高知本町筋　藤崎
つけを　一九〇　伊豫　松山古町　村上
にゆさ　一九二　紀伊　名草　山高
いるは　二〇七　紀伊　海士　山田
つはぬ　三九二　阿波　中　村
かろに　一四四　同　入善　永田
よに　九〇四　近江　八幡　高木
まはに　九九三　同　島田中　堀尾
やはぬ　二五〇　備前　竹代
むにわ　六〇一　登　小西
ゐのお　二九九　備中　玉
くやま　二〇六　同　増田
けふも　二〇六　備前　香
こえて　二二六　土佐　高知本町筋　藤崎
つけを　一九〇　伊豫　松山古町　村上
にゆさ　一九二　紀伊　名草　山高
いるは　二〇七　紀伊　海士　山田
つはぬ　三九二　阿波　中　村
かろに　一四四　同　入善　永田

郵便爲替貯金管理所

郵便爲替貯金管理所

郵便爲替貯金管理所

許可　7586　本文

第 7586 号　本文

第 7586 号　本文

○法人登記

○産業組合登記

第7586号　本文

○相續財産管理人選任

○準禁治産宣告

○準禁治産宣告取消

○公示催告

○除權判決

○免換銀行券發行高週報

○株券週報

○公示催告

第 7586 号　本文

第7586号 本文

預金	一〇、七二五、四〇一・九八〇
爲替借	五四、三一八・四一〇
總計	五九五、二六一、六八七・〇九七
資産ノ部	
割引手形	三九、一四六、一三〇・七一〇
買入外國手形	一六、五八一、一七一・八五〇
政府法定貸金	二二、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
貸出金	二七八、七〇五、二九六・九七六
爲替貸	四、四九四、一八三・六八九
國債	七五、六六五、〇六二・二四〇
所有物	二、八五九、八九三・五七七
通貨及地金銀	一五五、八〇九、九四八・〇五五
總計	五九五、二六一、六八七・〇九七

明治四十一年十月六日　日本銀行

○臺灣銀行券發行週報

臺灣銀行券發行毎週平均高報告（自明治四十一年九月二十一日至明治四十一年九月二十六日）

銀行券發行高		九、六七〇、一七三・一〇〇
準備	銀貨及銀塊	三四三、六三〇・九二〇
	金貨及金塊	四、五二二、四四九・〇〇〇
	準備合計	四、八六六、〇七九・九二〇
竝保證	公債證書	一、五四五、〇〇〇・〇〇〇
	政府證券	二〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	商業手形	三、〇五九、〇九三・一八〇
	保證合計	四、八〇四、〇九三・一八〇
制限超過發行高		二、八一三・〇九〇

明治四十一年九月二十九日　株式會社臺灣銀行

○東京郵便局外國郵便締切時限

明八日神戸マテ汽車便送同地ヨリ「オリエンタル」號ヲ以テ上海經由香港、印度及歐洲ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市内各局		東京局	市内各局
通常（普通）	八日午後二時半	八日午前十一時半	價格表記	同上	同上
通常（書留）	同日午後二時	同上	香港小包	同日午前九時半	同日午前九時半
			香港爲替	同日午後一時半	同日午前九時半

明後九日敦賀マテ汽車便送同地ヨリ「リーミン」號ヲ以テ浦潮斯德經由西伯利、歐洲、南米（伯剌西爾、亞爾然丁、巴拉圭、烏爾圭）ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市内各局		東京局	市内各局
通常（普通）	九日午後七時半	九日午後五時	小包	同上	同上
通常（書留）	同日午後七時	同上	爲替（聯合）	同日午後四時	同日正午十二時
價格表記	同上	同上	爲替（特別）	八日午後四時	八日午後四時

（備考）露國以外諸國宛通常郵便物ハ本便差立ノ指定アル書狀及葉書ニ限ル

本月十日横濱マテ汽車便送同地ヨリ土佐丸ヲ以テビクトリア經由歐米ヘ差立ノ郵便物ハ左記ノ時刻ニ締切ル

	東京局	市内各局		東京局	市内各局
通常（普通）	十日午前十時	十日午前六時半	小包	九日午後七時	九日午後五時
通常（書留）	同日午前九時半	同上	爲替（聯合）	十日午前九時	同日午後四時
			爲替（特別）	九日正午十二時	同日午前九時半

（備考）小包ハ北米合衆國、ポートリコ及加奈陀宛トス

○同上締切豫告

本月中外國郵便締切豫定日左ノ如シ

一布哇經由歐米諸國宛　十一、二十二、二十八日頃締切ノ筈
一シアトル經由同上　十、二十八日頃締切ノ筈
一加奈陀經由同上　十三、二十六日頃締切ノ筈
一タコマ經由同上　十八、二十二日頃締切ノ筈
一ポートランド經由同上　二十二日頃締切ノ筈
一西伯利經由ノ歐洲諸國及南米（伯剌西爾、亞爾然丁、巴拉圭、烏爾圭）宛ハ毎週日火金曜日ニ、上海竝ニ印度地方ヘハ毎週數回ノ差立アルニ依リ隨時差出ス方速達ヲ得ヘシ

○日本郵船株式會社汽船横濱出發表

榮城丸　今七日午後四時横濱出帆神戸行
越後丸　明八日正午十二時横濱出帆半田、四日市行
辨天丸　明後九日正午十二時横濱出帆四日市、神戸行（船客ヲ搭載セス）
三河丸　本月十日未明横濱出帆荻ノ濱、函館、小樽行
兵庫丸　同日午後二時横濱出帆八丈島、父島、母島沖東灣行
土佐丸　同日午後二時横濱出帆米國行
山口丸　同十一日午前十時横濱出帆同十五日午前十時神戸出帆上海行
三池丸　同十二日午後四時横濱出帆神戸行
天津丸　同十三日未明横濱出帆荻ノ濱、函館、小樽行
常陸丸　同十四日正午十二時横濱出帆同十七日午前十一時神戸出帆歐洲行
弘濟丸　同十五日午前十時横濱出帆同十七日午前十時神戸出帆上海行
鹿兒島丸　同日正午十二時横濱出帆四日市、神戸行
熊野丸（濠洲行）　同十七日正午十二時横濱出帆同二十日午前十時神戸出帆門司、長崎、香港、マニラ、木曜島、タウンスビル、ブリスベーン、シドニー、メルボルン行

○同上神戸出發表

淡路丸　明後九日午前十時神戸出帆門司、長崎、芝罘、大沽、牛莊行
丹後丸　同日午前十時神戸出帆門司、上海、香港行（米國線復航）
擇捉丸　本月十六日未明神戸出帆門司、香港、新嘉坡、コロンボ、孟買行
相模丸　同日午前十時神戸出帆門司、大連、芝罘、大沽、牛莊行
山城丸　同十七日午前十一時神戸出帆宇品、門司、大連行
立神丸　同十八日午前十時神戸出帆門司、長崎、釜山、元山、清津、浦潮斯德行

臺灣航路		神戸發正午	門司著	基隆著午前
西京丸	毎月	三日	四日	七日
		十八日	十九日	二十二日

右西京丸ハ神戸鐵道棧橋繋留ニ付キ同所ニテ切符購入乘船ノ便アリ

毎日	午後十一時（直航）	青森發	翌朝五時	函館著
	午後六時（直航）	青森發	翌朝六時	室蘭著

○大阪商船株式會社汽船神戸等出發表

韓國行
木浦丸　本月十日午前十時大阪出帆同日午後三時神戸出帆門司（下關）、釜山、木浦、群山、仁川行
福州丸　同十一日午後三時大阪出帆翌十二日午前十時神戸出帆門司（下關）、仁川、鎭南浦、安東縣行

淸國行
鐵嶺丸　本月十日正午十二時大阪出帆翌十一日午前十時神戸出帆門司、大連行
大信丸　同十二日正午十二時大阪出帆翌十三日午前十時神戸出帆門司、天津行（天津行ハ白河ヲ遡航シ居留地碼頭ニ横付ス）
天草丸　同十三日正午十二時大阪出帆翌十四日午前十時神戸出帆門司、大連行
大義丸　同十七日正午十二時大阪出帆翌十八日午前十時神戸出帆門司、大連行
大智丸　同二十日正午十二時大阪出帆翌二十一日午前十時神戸出帆門司、天津行（天津行ハ白河ヲ遡航シ居留地碼頭ニ横付ス）

臺灣行
恆春丸　今七日正午十二時横濱出帆本月十二日午前八時神戸出帆門司、基隆、安平、打狗行
福岡丸　本月十六日午後三時横濱出帆同十九日正午十二時神戸出帆宇品、門司、長崎、基隆、澎湖島、安平、打狗行
臺南丸　毎月八日、二十三日正午十二時神戸出帆門司、基隆行
臺中丸　毎月十五日、三十日正午十二時神戸出帆門司、基隆行

浦潮斯德行
鳳山丸　本月十二日午後五時敦賀出帆同十四日浦潮斯德著
木曜日午後二時浦潮斯德出發歐洲行急行列車ニ連絡ス